

「カンマー裁判所法（一四七一年）、カンマー裁判所法等族草案  
（一四八六年）、帝国カンマー裁判所法（一四九五年）」

文字 浩

中世後期から近世に向かう一五世紀は神聖ローマ帝国の帝国裁判所の歴史にとっても重要な転点となる時期であった。<sup>(1)</sup>  
一二三五年のウォルムス帝国議会における宮廷裁判官(Hofrichter)の設置とともに裁判所として制度的に整備された帝国宮廷裁判所(Reichshofgericht)は、一四世紀にはいり皇帝ルードヴィヒ・バイエルン(Ludwig dem Bayern, 1314-1347)の下でさらに制度的発展をみるが、一五世紀に入ると徐々に衰退してゆき、一四五一年にはその活動の終わりをつける。従って、それ以後は、文書上は一四一五年以降帝国宮廷裁判所と並行して活動したとされる国王カンマー裁判所(Das königliches Kammergericht)が唯一の帝国裁判所として機能することになった。しかし、帝国宮廷裁判所と同様、この国王カンマー裁判所も一四七〇年から一四七四年までマインツの大司教アードルフに賃貸されていた期間を除けば、その活動は停滞していたのであって、それ故、この両帝国裁判所は、裁判所に近くない当時の人々からしばしば両者の区別すらなされることなく非難の対象とされていたのである。<sup>(3)</sup>そして、このことが、フエーデの拡大をもたらすとともに一五世紀における帝国改革運動における重要な課題の一つとして、ラント平和裁判所問題を包み込む形で帝国裁判所の改革の問題を登場させる一因とな

った。こうして、帝国裁判所の改革の問題は、皇帝对等族の対立、等族内部における選帝侯对諸侯对都市の対立、あるいは、マインツ大司教ベルトルドに指導され、等族的中央集権化という意味での帝国改革を推進する——とりわけラインラント・西南ドイツの弱小ラントが熱心であったとされる——改革派对ランデスホーハイトの確立する中で領邦の地方的権力の独自性を強調するザンセン・ブランデンブルクといった改革消極派の対立といった複雑な図式と様相を示して展開する帝国改革運動の中心問題の一つとして一様でない展開を示すことになる。しかし、いずれにせよ、一五世紀後半の相次ぐ対トルコ、ハンガリー、フランクライヒとの戦いのために等族からの帝国援助を必要とした皇帝側の事情も手伝つて、等族に対する皇帝側の譲歩がなされ、その結果、対トルコ戦争のための帝国援助が緊急の問題となった一四九五年のウォルムスの帝国議会において、改革運動の展開の中では、たとえ中間的であるにせよその重要な成果の一つとして、永久ラント平和法 (Der ewige Landfrieden)、永久ラント平和法と帝国カンマー裁判所法の施行法とも言うべき法と平和の司掌法 (Die sogenannte Handhabung Friedens und Rechts)、ゲティネーブンフュルツ法 (Die Ordnung von gemeinem Pfennig) と並んで、帝国カンマー裁判所法 (die Reichskammergerichtsordnung, die keyserliche kammergerichtsordnung) の成立をみた。また、同年一〇月には一八〇六年の神聖ローマ帝国の崩壊まで紆余曲折を経ながらも帝国裁判所としての機能を果たし続けてゆく帝国カンマー裁判所がフランクフルトにおいて敵かなうちに開設された。勿論、一五世紀当時の帝国裁判所をめぐる問題は、このような裁判制度史的——国制史的観点からのそれにとどまらない。一例を挙げれば、帝国裁判所レベルでのローマ・カノン法の継受史の観点からみても、国王カンマー裁判所成立をみずから裁判するローマ法裁判官の登場と関連させるヴァイツェルの見解をさておいても、一五世紀を通じてドイツ法的な帝国裁判所の訴訟手続の中に漸次ローマ・カノン法的要素が浸透してゆくことが乏しい史料の中にもかいま見ることができるのであって、この時代の検討はこの観点からしても不可欠であると言つてよい。

本稿は、僅かな条文数でかつ内容的にも重複する部分が多いにもかかわらず、一四七一年法、一四八六年等族草案、一四九五年法の試訳を試みている。このような作業は、それ自体としても意味がないわけではないが、しかし、少なくとも、一方では、これに続いて、いわば一四九五年の帝国カンマー裁判所(法)とその成立前史とも言うべきこの時代を、裁判制度を

中心とした国制史的、民事訴訟法史的、継受史的な観点などから多角的に検討しつつこの帝國カンマー裁判所(法)の歴史的意義を解明する作業が、他方では、帝國カンマー裁判所に関する重要な裁判所法および帝國決議の翻訳を通して、約300年にわたるこの裁判所の活動を支えた制定法の展開を押さえ、この枠内において帝國裁判所の構成および訴訟手続がどのような変遷を辿ったかを探る作業が行われてはじめてこの作業はその充全たる意味をもつことになるのも確かである。以下では、このような課題を残しつつ、一四七一年法(一)、一四八六年等族草案(二)、一四九五年法(三)につき順次拙訳を試みることにしたい。

## 註

- (1) 通常は一五世紀始めの宗教改革が中世と近世の境界とされるのに対して、裁判所制度との関係では、これより少し早く一四九五年の帝國カンマー裁判所法の成立をもつてその境界としようとするのがJ. Poetsch, Die Reichsjustizreform von 1495, insbesondere ihre Bedeutung für die Rechtsentwicklung, 1912, S. 1.
- (2) スメンツによれば、この時期の裁判所の開廷数は、1465—1470年が7, 2, 11, 1, 2, 0, であるのに対して、1471—1474年が36, 85, 20, 33, である。1475—1480年が2, 4, 0, 2, 6, 4, である。一四八六—一四九〇年に各1となつて(R. Smend, Das Reichskammergericht, 1911 (Nd. 1966), S. 4, N. 6 u. 7)。従つて、今日、この数字は修正の必要があるとしても、この賃貸期間の間に裁判所の活動が活発化したことは明らかである。なお、このような活発化の主たる原因は、年間一〇〇〇〇ターラーという賃貸料にあつたとされるが、たとえ法外手数料(Gerichtssporteln und Kanzleiatzen)や裁判所の罰金(Gerchsbußen)を得るにすぎたとしても(Vgl. O. Franklin, Das Reichshofgericht im Mittelalter, Bd. 1, S. 334, 352f.; F. Battenberg, Beiträge zur höchsten Gerichtsbarkeit im Reich im 15. Jahrhundert, 1981, S. 40, N. 52)、この程度の裁判活動で賃貸料を支払つたかどうかは不明である。なお、勝田 有恒「帝室裁判所規則(1495年)の成立」一橋論叢六八巻四号一〇ページ註二三を参照。その他、この時代の国王カンマー裁判所に引き、詳しくは別稿によるが、とりあえず、Vgl. J. Lechner, Reichshofgericht und Königliches Kammergericht im 15. Jahrhundert, MIOG, Erg. Bd. 7 (1907), S. 167f.; J. Weitzel, Der Kampf um die Appellation ans Reichskammergericht, 1976, S. 100ff.

(3) R. Smend, Das Reichskammergericht, S. 3.

(4) 参照 波瀬・古岡編「近代国家形成の諸問題」(1979年)一七六頁。また、國王カンパー裁判所を利用した当事者に  
ついて分析したツィンツァーの論文(H. Milbradt, Die Parteien in ihren Prozessen vor König und königlichem  
Kammergericht in der 2. Hälfte des 15. Jahrhunderts, 1979.)を手掛かりとし、当事者の地域的分布を統計的に分析  
したラウエリによれば、シッペン・タライヌが20・6%、上部ライン・タライヌが17・5%を占め、フランクン・  
タライヌの14・5%を除けば他は10%未満であるという。この訴訟の側面から本文の指摘を裏づけることになると思  
われる。F. Ranieri, Recht und Gesellschaft im Zeitalter der Rezeption. Eine rechts- und sozialgeschichtliche  
Analyse der Tätigkeit des Reichskammergerichts im 16. Jahrhundert. Tb. 2, 1985, S. 305.

(5) 帝国裁判所とドイツの統一をめぐるカンパー裁判所の歴史 H. Angermeyer, Königtum und Landfriede  
im deutschen Spätmittelalter, 1966.; ders, Begriff und Inhalt der Reichsreform, ZRG GA 75 (1958), S.181-205.;  
ders, Die Reichsregimenter und Ihre Staatsidee, S.265-315.; ders, Reichsreform und Reformation, HZ 235 (1982),  
S.529-604.; ders, Die Reichsreform 1410-1555, 1984. 8-473 F. Hartung, Die Reichsreform von 1485 bis 1495. Ihr  
Verlauf und ihr Wesen. S.24-53, 181-209.; E. Molitor, Reichsreformbestrebungen des 15. Jahrhunderts bis zum  
Tode Kaiser Friedrichs III, 1921.を参照せよ。また、その型の再版が施され、ドイツ Vgl. A. Laufs, Rechtsentwick-  
lungen in Deutschland, 3. Aufl. 1984, S. 70ff.

(6) 通常は帝室裁判所(法)と呼ばれていたものに對して、帝国カンパー裁判所(法)と呼ぶことについては、拙稿「デュー  
ステルカン」『十六世紀の法生活』における帝国カンパー裁判所』(上)南山法学九卷二・三・四二頁を参照。

(7) J. Weitzel, Dinggenossenschaft und Recht, Teilband 2, 1985, S. 1342ff.

(8) 國王カンパー裁判所の訴訟手続については、ロー＝ラン法史學雜誌の 67 号 Vgl. O. Franklin, Das königliches  
Kammergericht vor dem 1495, 1871.; J. H. F. v. Harpprecht, Des Kayserl. und des Heil-Röm. Reichs Cammer-  
Gerichts Staats-Archiv, Bd. 1, 1757, §. 79, 82, 90, 95.; B. Dick, Die Entwicklung des Kammeralprozesses nach den  
Ordnungen von 1495 bis 1555, 1981, S. 13f. 67 号 一五五五と一五五五の訴訟手続のロー＝ラン  
裁判所の訴訟手続について Vgl. U. Eisenhardt, Die kaiserlichen privilegia de non appellando, 1980,  
S. 30ff.; ders, Die Rechtswirkungen der in der Goldenen Bulle genannten privilegia de non evocando et  
appellando, ZGR GA 86 (1969), S. 75ff.;

(9) 数ある帝国カンマー裁判所関係の法の中で、とりわけ重要なのは、一五五五年の帝国カンマー裁判所、一六一三年の帝国カンマー裁判所草案、一六五四年の帝国最終決議である。このうちカンマー裁判所の訴訟手続を定める一五五五年法第三部および帝国最終決議の殆どを占めるカンマー裁判所関係の決議内容については、近年中に翻訳を公表の予定。

(10) 一四八七年五月一日のニールンベルクでの草案が、J. Ch. Lünig, Das Teutsche Reichs-Archiv, Teil 4, 1720, S. 293-296に収録されている。入手次第機会をあらためて紹介することにした。なお、ここで翻訳上の問題について簡単に触れておくと、本稿では、可能なかぎり同義語やこれに類似する語は一語で訳するとともに読みやすさに心掛けたつもりである。逐語訳は繁雑にすぎただけでなく、同義語を訳しわけるとはむしろ誤解を招きやすいと思われるからである。

# 一 一四七一年一〇月二四日カンマー裁判所法

本稿で用いたのは、K. Zeumer, Quellensammlung zur Geschichte der Deutschen Reichsverfassung in Mittelalter und Neuzeit, I. Teil, 1913, S.270-273 以下。その他 J. J. Schmauss u. H. Ch. Senckenberg, Neue und vollständigere Sammlung der Reichs-Abschiede, Bd. 1, 1747 (Nd. 1967), S.249-252 を参照した。

## 註

(1) なお、一四七一年法と関連し興味深いのが F. Battenberg, Eine Darmstädter Handschrift zur Kammergerichtsordnung Kaiser Friedrichs III. von 1471, Archiv f. hess. Geschichte u. Altertumskunde, NF 36 (1978), S.37-62, 以下。Vgl. F. Battenberg, Beiträge zur höchsten Gerichtsbarkeit im Reich im 15. Jahrhundert (Quellen und Forschungen zur höchsten Gerichtsbarkeit im alten Reich, Bd. 11, 1981, S. 30ff., 54ff., 74ff.)。彼は、カンマー古文書館の文書整理中に偶然一四七一年法に関する手書文書を発見した。従来、この法は、帝国大書記長である

インツの大司教アードルフが一四七一年にカンマー裁判所を賃貸されてカンマー裁判官になった後、レーゲンスブルクの帝国会議でのラント平和に関する審議の過程において、皇帝フリードリッヒ三世が国王カンマー裁判所にこの裁判所法を付与したとされていたが、彼は、この資料を検討して、一四七一年法は公布されなかったのではないかと興味ある推測をしている。ただ、本稿では、これまで一つとされてきた条文が三つの条文に分散していることや、書き写しの際のミスなども手伝って、内容・体裁の上で両者の間に若干の相違があることはあっても基本的には同一に近いものと考えてよいので、彼の発見した資料（以下、BHSとして引用）については必要なかぎりで各条文の注で触れるにとどめた。なお、三年前の夏期休暇中にゲッティンゲンに滞在しており、ゼラート教授から一四七一年法の法文の意味などにつき貴重な御教示を頂いた。この場をかりてお礼申しあげたく思う。

# カンマー裁判所法（一四七一年一〇月二四日）

神の恩寵によりローマ皇帝にして常に帝国の領土を拡大せる者、ハンガリー、ダルマチア、クロアチアなどの国王、オーストリー、ステインなどの大公である朕フリードリッヒは定める。以後、朕のカンマー裁判所は、一名のカンマー裁判官および相当数の尊敬に値し信頼しうる陪席判決人<sup>(1)</sup>によつて占められるべきである。これらの者は、朕のカンマー裁判所のために、朕が帝国にいるときはその所在地、あるいは、カンマー裁判所を開廷することを命じた場所において常に待機するよう義務づけられる。あるいは、これらの者のうち多数の者が（そのように義務づけられる）。そして、あらゆる猜疑を避けるため、これらの者および将来カンマー裁判官、陪席判決人となるであろう者は、この以下に規定された宣誓をなすべきである。

Wir Friedrich von Gots gnaden Römischer keiser zu allen zyten merer des reichs, zu Hungarn, Dalmatien, Croacien etc. König, herzog zu Oesterreich und zu Steyr etc. sezen und ordenen, daß hinfür unser cammergericht besizen sollen ein cammerrichter mit einer zimlichen zahl erbaren, redelichen, beysizenden urteilern, die verbunden seyn sollen, unsers cammergerichts stetiglichs, wo wir zu zeiten im reich sein, oder cammergericht zu halten befehlen, zu gewarten, oder das merer aus yn, und auf daß aller argwohn vernieten werde, sollen dieselbigen, und wer hinfür zu cammerrichtern

und urtheilen aufgenommen werden, diesen hernach geschrieben eidt thun.

- (1) setzen und ordnen は、「定めかつ命じる」とでも訳するところであるが、ここでは本文のように「定める」と一語で訳することにした。これ以後の帝国カンマー裁判所法をみると、setzen, ordnen, meinen, willen などの単語が単一あるいは種々の組み合わせて登場する。しかし、このような使いわけに内容的な意味での違いが見い出せないことを考えると、わざわざ逐語的に訳するのは意味がないと思われる。なお、本稿ページ注(1)参照。
- (2) kammer richter をどう訳するかは難しい。後の帝国カンマー裁判所のように、裁判所が官庁として一応の形を整え、richter にこれを代表する権限が認められれば、条文の内容によっては、「カンマー裁判所長」とでも訳するのが妥当であるかも知れない。しかし、この時代のカンマー裁判所については私自身まだ不明な点があるので、ここではとりあえず本文のように訳することにした。
- (3) ここでは、陪席判決人の人数や資格について、一四八六年草案(§1)や一四九五五年法(§1)のような明確さはない。しかし、人数については、帝国宮廷裁判所の「最低七名原則」が行われ、資格については、一四八六年草案の資格が当時の実務の追認にすぎないことにつき、F. Battenberg, Beiträge, S.55.
- (4) 「陪席判決人」の訳は、beysitzenden urtheilen の直訳である。ただ、このような表現は他の箇所では見当たらず、Beysitzer, Urtheiler, assessor といった表現が用いられ(因に、BHSでは beysitzern und urtheilen となっている)、本文の表現は書き写し間違いではないかとの意見もあることを考えると躊躇しないでもないが、この者の訴訟手続上の地位に最も適合しているとみてこの訳をとった。
- (5) ここでは、セラートの指摘に従って meisten aus Ihnen として訳した。
- (6) BHSでは、注(1)のつぎから注(5)までが第一条となり、その後の文章は第二条の最初の法文となっている。従って、当然これ以後の条文はずれることになる。

# 第1条 裁判官および陪席判決人の宣誓<sup>(1)</sup>

私は宣誓する。<sup>(2)</sup>カンマー裁判所において私の面前で審理される事件につき知力を尽くして判決を下そうとすること、そして、このことを、特典、恩恵、好意、贈物、贈物の約束などのゆえに放棄せず、また、判決することを偏頗的に手控えた

りためらわれないこと。また、この裁判所で訴訟をしようとしている当事者に対して事前に約束せず、いかなる当事者に対しても相手方当事者に不利になるような援助をせず、当事者から何かを聞き知ったり、事件につき助言をせず、すべてを悪意なしにおこなうこと。

### § 1. Der eyd des richters und beysitzenden urtheilern.

Ich N. globe und swere, daß ich nach allen minen besten verstantniß und sinnen recht urtheilen und recht sprechen will, in sachen, so vor mir in dem kammergericht gehandelt und fůrgenommen werden, u. das nicht laßen umb vorcht, gunst, lieb, gab oder versprechniß eincher gab oder anders; mein urteil auch zu sprechende geuerlich nicht verhalten oder verziehen, auch mit keiner partei, die vor dem gerichte zu schaffen hat, einche fůrrede haben, noch keiner parteyen wider die andern hůlf oder beystand tun, noch ichtz von yne nemen oder in iren sachen rathen, sunder alles geuerde.

- (1) ここでは、裁判官と陪席判決人の区別がなされていないが、これは一四八六年草案、一四九五年法にも共通している。従って、ここからドイツ法的な訴訟を指揮する裁判官と判決をする判決人という両者の役割分担がなくなったと推論することはできない。

- (2) ここではまだ一四八六年草案や一四九五年法のように誰に対して宣誓するのが明示されていないが、バッテンベルクは、皇帝あるいはそれに代わる者の出席の下に宣誓されたであろうとする。F. Battenberg, Beiträge, S. 55.

### 第2条 裁判所書記の宣誓

私はは宣誓する。私は、私の面前でおこなわれるあらゆる裁判上の行為を正確かつ厳密に書面に作成せんとし、裁判所に提出された記録や書面を裁判所に誠実に保管し、裁判官および陪席判決人の許可のないかぎり、当事者にもいかなる関係者にも手渡し、開封し、読み聞かせ、書き写したりさせないこと。

### § 2. Gerichtschreibers eydt.



Ich N. globe und swere, daß ich alle gerichtshandel, vor mir in gericht gehandelt und fürbracht, getrewlich und eigentlich aufschreiben will, und register, briefe und urkund, so im gericht fürbracht und gelegt werden, bey dem gericht getrewlich halten, und keiner partei oder yemants von ihren wegen übergeben, öfenen, lesen, hören oder abschrift davon werden lassen, es würde denn zu gescheen von richten und urtheilern erleubet.

第3条 さらに、プロクラートルは、<sup>(1)</sup>前もって、朕により許可を受けて採用され、<sup>(2)</sup>以下の宣誓をしなければ、訴訟において陳述することを許されない。同様に、いかなる者も、前もって、朕のあるいは朕に命じた者によつて、この職務に採用され、当事者に助言しうる誠実で学識あるアドヴォカートに採用されなければ、アドヴォカートではなく、助言をおこなうべきでない。彼は、この職務に採用されるに先立って、以下に記載されたアドヴォカートの宣誓をなすべきである。

いかなる当事者も、他の当事者もアドヴォカート、プロクラートルに依頼することができると、一つの訴訟事件につき一名以上のアドヴォカート、プロクラートルに依頼すべきでない。そして、用心のために、アドヴォカートあるいはプロクラートルは、助言を求めた当事者がそのアドヴォカート、プロクラートルを事件について助言させプロクラートルに採用しようとするのでなければ、事件につき当事者に対して助言すべきでない。<sup>(3)</sup>

§3. Item, es soll kein fürsprech oder procurator, das wort in dem rechten zu thun, zugelassen werden, es sey denn [daß er] zuvor von unsern wegen zugelassen, aufgenommen, und diesen hernach geschriben eidt gethan habe. Deßgleichen soll auch nymants advocat seyn oder advociren, er sey dann zuvor durch uns, oder wem wir das befehlen, zu sollichem amt aufgenommen, auf daß redelich und gelehrte advocaten, die den partein wißen zu ratthen, aufgenommen werden, und eher er zu solchen amt aufgenommen wüdtet, sol er globen und sweren den eyd, als hierunter von den advocaten geschriben ist.

Es soll auch kein partei über einen geswornen advocaten oder procurator in einer sachen aufnehmen oder bestellen, auf daß die ander partei auch möge advocaten und fürsprecher bekommen, und daß darinnen kein gefehrlichkeit gebraucht werden möge, soll kein advocat oder procurator eincher partei in ihrer sache raten, dieselbige partey, die yn

umb rath ersucht, wolle dann den advocaten oder procurator in den sachen zu advocaten oder zu procurator aufnehmen.

(1) 原文では、ドイツ法上の *fürsprech* とローマ・カノン法上の *procurator* が併用されているが、ここではとりあえずプロクラートルのみを訳出した。当事者の訴訟代理人としての *procurator* と当事者の代言人としての *fürsprecher* との機能的区別が、その当時も現存していたとすれば両者を訳し合わせる必要があるのは勿論である。なお、国王ルプンヒットの時代以来 *Vorsprecheramt* と並んで *Hofgerichtsprocuratur* が存在したことが F. Battenberg, Beiträge, S. 57.

(2) バッテンベルクは *Zulassung* と *Aufnahme* とを区別し、この規定からすると、プロクラートルについては正式の許可 (*förmliche Zulassung*) が必要であるが、アドヴォカートについては不要であるとしている。なお、彼は、このことを説明するために、内容・形式の両面で一四七一年法と類似している一四六三年のバンベルク裁判所法がプロクラートルの人数を決めていることを指摘し (§ 19: Item uff das, das die menge der procurator ein zil und ein mass habe, so wollen wir das hyfür never vier procurator gesworne sein...)。カンマー裁判所でも「プロクラートルについては人数が決まっていたので許可を必要としたのに対して、アドヴォカートについては必要な要件が満たされれば採用されたので許可が不要であったのではないかと述べているのが注目される。(F. Battenberg, Beiträge, S. 26, 55f, 56: N. 94.)」

(3) この規定によれば、アドヴォカートについてのみ学識が要求されていることに留意されたい。

(4) BHS では、訳文の第二段落の法文は第五条のアドヴォカートの宣誓の前に挿入され、第三段落の法文は独立の条件としてアドヴォカートの宣誓に関する条文の後に置かれている。規定の内容面からは明らかに BHS の方が適切である。

#### 第4条 プロクラートルの宣誓。

私は以下のことを宣誓する。事件につき弁論を引き受けた当事者のために、当該訴訟において誠心誠意をもって主張し、訴訟において事件につき知力を尽くして当事者のために陳述し、また、そこにおいて意識的に不実・不当なことをせず、当事者が争っている事件の一部を取得する約束を当事者とせず、また、当事者から聞き知った秘密や攻撃防御方法あるいは事件についての教示により私自ら気づいた秘密や攻撃防御方法を、誰に対しても当事者に損害を与えることを知りながら明ら

#### § 4. Der prourator-eydt.

(1) BHS に「*mit meren oder andern gedingen nit besworen oder erhoeren*」となつてゐる。ハッテンベルクは Zeumer の原文では意味不明だとするが (F. Battenberg, *Beigträge*, S. 57., ders. *Handschrift*, S. 46) ゼラーはそれでないとして述べていた。

(2) BHSによれば、bei den, der kammerrihter das uss der urteilen befehlen wurdeとなっている。バッテンバルク

は、BHSの成立年代からみて、このような取り扱いが一四七一年以後のカンマー裁判所の実務となったのではないかと述べる。F. Battenberg, Beiträge, S.58.; ders. Handschrift, S.47.

#### 第5条 アドヴォカートの宣誓

私は宣誓する。引き受けた訴訟事件につき、訴訟に関して誠実に助言・陳述し、偽りや悪意を用いようとせず、当事者の不利になるような秘密や事件の状況を悪意で誰にも知らせず、また、請求額の一部を得るための特約を前もって当事者とせず、しかるべき報酬で満足すること。当事者との間で報酬につき意見のくい違いが生じたときは、カンマー裁判所長と受命された陪席判決人の判定に異議なく従おうとすること。

#### § 5. Der advocaten eydt.

Ich N. globe und schwere, daß ich in den sachen, durch mich angenommen, dem rechten nach getreulich raten und handeln, keinen falsch oder gewerde darinnen gebrauchen will, und die heimlichkeit und gestalt der sachen meiner parthei zuwider mit geferde nymand offenbaren, auch mit der parthei sunder gedinge umb ein teil der heubtsumn zu haben nit machen oder annehmen, sunder mich zimlichs und redelichs soldes beüngen, und ob zwischen der parthei und mir deßhalb irtung entstünde, nach erkenntniß des cammerrichters und der beysizer, die er zu ime nemen würdet, entscheiden und auch dabey ungewidert bleiben laßen<sup>(1)</sup>.

- (1) BHSによれば、nach erkenntniß des kammerriheresとなっている。これについては前条注2参照。なお、バテンベルクは、前条が陪席判決人で本条がカンマー裁判官となっていることにつき、一義的でないとしつつ、アドヴォカートの場合の方がカンマー裁判官のコントロールを留保すべきより重大な法的困難さがあったか、あるいは、単にカンマー裁判官と陪席判決人の分業化があったのではないかと述べている。F. Battenberg, Beiträge, S.58.; ders. Handschrift, S.47.

第6条 誰も貧困のゆえに法的救済なしに放置されないように、カンマー裁判官は、宣誓により、貧困であることが証明された者の事件を、巧みに事件につき助言し訴訟において陳述するため、これをアドヴォカートとプロクラートルに委ねるべきである。

このような事件がカンマー裁判官により、いずれかのアドヴォカートあるいはプロクラートルに委ねられたとき、これらの者は、前述のごとく、異議を述べることなくこれを引き受ける義務があり、これに違背したときは、職務剝奪の処罰を受ける。だが、事件が数件あるときは、カンマー裁判官は、プロクラートルとアドヴォカートに均等に振り分け、すべてを惡意なしにおこなうこと。

§ 6. Item, auf daß armuts halben nymands rechtloß gelassen werde, so soll der cammer richter, so zu zeiten sein wird, die sachen der armen, die yr armut mit ihren eyden, ob der gesonnen würde, erweisen, den advocaten oder procuratorem entpfehlen, darinne zu raten und zum besten in recht fürzubringen.

Und welchen advocaten oder procuratorem solch sachen von dem cammerrichter entpfolen wurde, sol schuldig und pflichtig sein, bey pene entsetzung seins amts, die on wiederrede, wie volgemelt, anzunemen, doch so soll der cammer-richter, ob der sachen mer denn eine würden, die gleich unter die advocaten und procuratores teilen, alles ungerichtlich.

第7条 また、諸候、グラーフ、ヘレン、あるいは都市が、訴訟につき助言し陳述するために、上述したとは異なる者をアドヴォカートあるいはプロクラートルに採用しようとするとき、あるいは、誰かが自ら訴訟において陳述しようとするときは、彼等は、その者の宣誓にもとづいて法的にしかるべきことをなす権能を有するべきである。<sup>(1)</sup>

§ 7. Ob auch ein fürst, grav, herre oder commun ander advocaten oder fürsprecher, dann obgemelt, im rechten zu raten oder zu reden nehmen wolten, oder ob ymants im selbst sein wort im rechten thun wolt, sollten sie macht haben, doch auf eyde von denselben zu thun, so sich durch recht gebühren würde.

(1) バッテンベルクによれば、この規定は、一つには、帝国等族とりわけ大都市がかつて訴訟代理人であった法律顧問やプロクラートルを利用しようとしたこと、他には、外交的交渉の他に訴訟追行についても授權された帝国等族の使節が皇帝の宮廷にいたことのゆえに必要であった。F. Battenberg, Beiträge, S. 59.

第8条 裁判所の使者は、次の宣誓をなし、宣誓にもとづき陳述することには責任をもつべきである。

私は宣誓する。命ぜられたあらゆる召喚状、判決書、訴訟書面、命令書を、命令にもとづき命ぜられたしかるべき場所において誠実に告知し手渡そうとすること。そして、これにつき、どこで、何時、誰に対してこれをおこなったかを常に正確に報告し、悪意を用いないで、誰のためにも放置せず、また生じた事実以外のことを陳述したり報告したりせず、すべてを悪意なしにおこなうこと。

§ 8. Was gerichtz boten sein, sollen diesen eid tun, und was sie also uf den eyd sagen und furbringen, dem soll gestanden werden.

Ich N. globe und schwere, daß ich alle ladung, urteil, proceß und gebotsbriefe, so mir bevolhen werden, getreulich verkunden und uberantworten will, wohin mir das zu thun bevolhen und sich geburen wirdet, und des getreulich relation zu yder zeit thun, wo, wann und wem ich solchs thun soll, und darinn kein geuerlichkeit gebrauchen, noch um ymants willen laßen, auch nicht anders furbringen noch referiren, dann wie sich die dingk begeben haben, sunder alles geuerde.

第9条 また、送達吏は、マイルごとのしかるべき(額)の報酬で満足すべきである。しかし、これをめぐって送達吏と当事者の間で意見のくい違いが生じたときは、彼等は、朕のカンマー裁判官および陪席判決人あるいは朕のカンマー裁判官によりこれにつき受命された陪席判決人が判断したごとくに、そのように決められそれに従うべきである。

§ 9. Es sollen auch die boten sich um ihren lohn von yder meyl zimlichen vernügen laßen; wirdt aber darum zwischen

yn und den partein irrung, wie sie denn unser cammerichter und urteilere, oder wenn unser cammerichter das auß yn bevehlen würde, darumb setzen und entscheiden, dabey sollen es beyde partheyen bleiben laßen und dem nachkommen.

第10条 そして、以後朕のカンマー裁判所において審理される事件につき、各人が、なすべきことがわかるように朕は定める。原告が指定された開廷期日に出席せず、そのことにつき法的に充分なしかるべき理由も陳述させないとき、この原告の欠席が被告の訴えに対する訴答・争点決定前であるときは、被告は、この度の訴訟から免れ、要した裁判費用を(原告から)得るべきである。

§ 10. Und daß sich ein jeder in sachen, so hinfure in unserm cammergericht gehandelt werden, zu halten wiße, setzen und ordenen wir, so der cläger auf den gesetzten rechtragk nicht erschiene, auch kein ehehafft seiner verhinderung, der zu recht gnug were, beybringen laßen wird, wann denn solch sein außenblunge und contumacia beschicht, ehe der antworter auf die clage geantwort und litem contestirt hette, so solt der antwerter von solchem gericht auf daßelbig mahl entledigt werden und die gerichtskosten, so darauf gegangen weren, erlangt haben.

第11条 しかし、被告が、召喚状において特定されたか原告側から訴訟において提出された請求につき、訴訟で解決することを求め、被告に責任がなく正当であることを陳述しようとして、訴訟の追行を求めるときは、被告はこのような申立につき聞き届けられ、被告の陳述と証拠に基づいて終局的に何が法であるかについて裁判されるべきである。

§ 11. Ob aber der antworter begerte, sich von der clage und ansprach, in der citation bestimmt, oder von des clegers teil in recht fürbracht mit recht zu entledigen, und sein unschult und gerechtigkeit fürbringen wolt und sich erbeut, solichs in recht zu volfürn, so solt er in solchem erbieten also gehört und zugelassen werden, und auf sein fürbringen und kuntschaft mit entlicher urteil gescheen, was recht were.

第12条 しかし、被告の訴えに対する答弁をし争点を決定した後原告が懈怠したときは、被告は、申立に基づき、召喚された訴えから免れ、訴訟費用を(相手方)から得るべきである。しかし、裁判官と判決人が陳述と証拠などの裁判上の陳述に基づき判決する途をとったときはこのかぎりでなく、この場合には、当事者はこれに従うべきであって、訴訟費用は法的にしかるべく決められる。

§ 12. Ob aber der cleger, nachdem der antwetter auf sein clage geantwort und litem contestiret hette, ungehorsam würde, so soll der antwetter auf sein begeren von der clag, darin er geladen wer, entledigt werden und seinen gerichtskosten behabt haben, es wer dann, daß der richter und die urteiler auß dem fürbringen und gerichtshandel als kundschafften und anders den weg abnehmen möchten, was ynen in solchen zu erkennen und zu urteilen wer, dem sollen sie also nachkommen, und umb gerichtskosten gescheen, was sich in recht gebiret.

第13条 しかし、被告が彼の答弁の前後において懈怠したときは、裁判官と判決人は、原告の申立に基づいてすべての陳述を聴取して訴訟を進行し、終局判決および執行状などに至るまで手続を進め、終局判決で勝訴した原告のために、懈怠した被告に対する訴訟費用の裁判をなすべきである。しかし、被告が勝訴したときは、訴訟費用については法的にしかるべく裁判されるべきである。

§ 13. Würde aber der antwetter vor oder nach seiner antwort ungehorsam, so sollen richter und urteiler auf des clegers anrufen in der sachen mit der verhörung alles fürbringens volnfaren und darauf hiß zu entlichen urteilen und andern processen und executorial procediren und dem cleger, so er das entlich urteil behabt hette, den ungehorsamen angeclagte in gerichtskosten urteilen; so aber das urteil für den antwetter gesprochen würde, so soll umb gerichtskosten auch gescheen, als sich in recht gepüt.

第14条 以後、上訴した当事者がこれまでしばしば上訴の外観をとることによって試みた(訴訟の)遅延を避けるために、朕



は定める。被上訴人と呼ばれる上訴された当事者は、これ以後、上訴人に上訴を遂行する上で法的に認められた一年の期間を待つ義務はなく、上訴の時点から6ヶ月経過した後、<sup>(1)</sup>朕の裁判所に出頭して、上訴書面と告知書を提出し、それにもとづき召喚状を得て上訴を遂行することができる。

§ 14. Und auf daß verlengerunge, die die parthei, so geappellirt hat, biß her durch den schein ihrer appellation oft gesucht haben, hinfür verniden werden; so orden und sezen wir, daß die parthei wider die also appellirt wurde, die dann pars appellata heißet, hin furter nicht schuldig sey, das jare auswarten, das dann den, die appelliren, zu vollfurunge derselben ihrer appellation im rechten zugeben ist, sundern sie mögen nach verlaufen sechs monaten von der zeit der appellation vor unserm gericht erscheinen, instrument solcher appellation und der verkündigung furbringen, darauf ladung erlangen und die appellation prosequiren.

(1) ディックは、これにつき、被上訴人は、6ヶ月を経過したときは、上訴書面と告知書を提出でき、それにもとづいて、上訴人に召喚がなされて手続が進行せれると述べている (B. Dick, aao., S.365, N.1040.)。

第15条 (当事者の)陳述が混同されることにより訴訟が妨げられ、裁判所長と陪席判決人が理解し得なくならないように、朕は定める。ある一つの事件が裁判所に提起されたとき、<sup>(1)</sup>当事者は相互に自らあるいはその弁護士を通して陳述するので、事件が必要に応じて審尋され、中間判決あるいは終局判決を求める状態にもたらされるまで、他の事件は着手されるべきでない。

§ 15. Auf daß auch durch vermischung der reden die sachen nicht verhindert noch den richter und urtheilern unverständig gemacht werden, so wollen wir, daß, so ein sach in dem gerichts fúrgewand wird, daß kein ander sach, dieweil die partheien gegen einander durch sich oder ire anwelde reden, fúrgenommen werden, biß die sach nach notduirft verhört und zu recht gesetzt oder auf den stand bracht wer, das recht alsdann erfordert.

(1) zu Recht setzen <sup>と</sup>技術的な用語法 <sup>に</sup> <sup>つ</sup> <sup>づ</sup> <sup>け</sup> Vgl. O. Franklin, aa0, S.11, N.37.

第16条 つぎの場合にはその限りでない。すなわち、当事者に熟慮期間が認められ、その間に別の事件を審尋できる場合、あるいは、当事者に提出期間が認められた場合は、上述のように、他の事件が審尋されるべきである。これに反し異なった行為をした者は、朕に代わる朕のフィスカルに一〇グルデンを支払うべきである。だが、上述されたこと以外は何も審尋されない。

§ 16. Es were dann daß einicher parthein ein zeit zu bedencken gegönnet würde, also daß man do zwischen ein andere sache verhören möcht, oder daß einicher parthein beybringung zu theilen würde, als denn solt man ein ander sache verhören, wie obgemelt ist. Wer sich auch dawider sett und anders hilt, der solt unserm fiscal mit zehen gulden an unser statt zu bezahlen verfallen sein, und doch nit anders, wie obgemelt, verhöret werden.

(1) Dick, aa0, S.13.は「一四七一年法の説明の箇所で熟慮期間あるいは訴訟資料提出のための期間と述べている。ein zit zur <sup>が</sup> Beybringung の前に省略されていると考えてよいであろう。

第17条 さらに、最初に規定されたように、朕のカンマー裁判所には、この裁判所に待機する義務とともに上述のいづくに宣誓をなすべきカンマー裁判所長と陪席判決人とが置かれるべきである。

§ 17. Item, als im anfang gemeldet ist, unser cammergericht mit cammerrichter und urtheilern besetzt werden soll, die desselbigem gerichts zu warten verpunden sein sollen auch eyde darinn thun, wie obgemelt ist.

第18条 朕が、相当であるとして報酬を受へべきより一層ふさわしい者をそこに置くことができるように、朕は定める。訴

訟の開始時に、各々の原告は、その請求金額につき一〇〇グルデンごとに二グルデンを支払う。これは朕の前任者たるローマ皇帝・国王により手数料と呼ばれ、そこから裁判官と陪席判決人に対して報酬が支払われた。だが、訴訟事件が一〇〇〇グルデンを超えたときは、二〇〇〇グルデンまではその余額につき一〇〇グルデンごとに一グルデンが支払われる。しかし、請求額が一〇〇〇グルデンを超えたときは、その余額につき一〇〇グルデンごとに二分の一グルデンが支払われる。終局判決において費用分担を命じられた当事者は、手数料と呼ばれるこの金額を勝訴した当事者に支払わなければならない。

キリスト生誕後一四〇〇年と七一年、朕の帝國におけるローマ国王の三二年、皇帝の二〇年、ハンガリー国王の一三年の一〇月二十四日にウィーンにて公布なる。

§ 18. Auf daß dann wir dester trefflicher person daran zu setzen gehabt mögen, die auch darum, als billig ist, yren sold haben sollen, so sezen wir, daß ein yder cleger, in anfrage des rechtens, von ydem hundert gulden, als hoch sich sein anspruch trifft, zween gulden geben soll, das dann unser vorfarn, Röm. keißer und könige, sportulas genannt haben, davon dem richter und den urteilern iren sold zu bezalen und auszurichten, doch also, ob ein sach sich ob tausend gulden haben würde, so sollt von dem übrigen biß auf zwey tausend gulden, ye von hundert gulden, ein gulden gegeben werden. So aber die summ über zwey tausend gulden treffe, von dem übrigen ye von hundert gulden ein halber gulden bezahlt werden, und solich geld, sportulae genannt, soll die parthey, die in die costen nach der entlichen urteil geteilet wirdet, der behaltenden parthey widergeben und ausrichten.

Geben und öfentlich verkündigt zu Wien, auf den 24. tagk des monats octobris, nach Cristi geburde vierzehenhundert und in dem ein und siebenzigsten, unser reich, des Römischen im zwey und dritzigsten, des keiserthums im zwenzigsten, und des Hungertischen im dreyzehenden jaren.

## 二 カンマー裁判所法等族草案（一四八六年四月）

本稿で用いたのは、K. Zeumer, *Quellensammlung zur Geschichte der Deutschen Reichsverfassung in Mittelalter und Neuzeit*, Teil I, 1913, S. 273-276. による。

皇帝カンマー裁判所は以下のごとくに定められるべきである。

第1条 まず第一に、皇帝カンマー裁判所は、少なくともグラーフである一名のカンマー裁判官と一二名の陪席判決人で設置されるべきである。これら一二名の者は、中庸で気高く、その半数は法学識があり、他の半数は少なくとも騎士出身であるべきである。訴訟において、一二名の陪席判決人、あるいは、その過半数の者が事件につき判断したこと、彼等の意見が同数に分かれたときは、カンマー裁判官の決めたことは、そのように決せられるべきである。

Das keyserlich camergericht nachvolgendernuß zu ordnen.

I. Zum ersten, das keyserlich cammergericht zu besetzen mit einem cammerichter<sup>1)</sup>, der aufs wenigst ein grave sey, und zwölf beysizern [urteilern], die dreyzehn redlichs erbers wesens, wissens, übung und ye der halb teil der recht gelert und gewirdigt, und die andern ufs geringst von der ritterschaft geborn sein sollen, und was die zwölf beysitzer oder der merer teil in sachen erkennen, und ob sie spenning und auf ighichenteil gleich wern, welchen dann der richter ein zufall tut, dabey soll es bleiben.

第2条 裁判官および陪席判決人の宣誓。さらに、すべての者は、前もって皇帝陛下と神聖な神に対してつぎのことを宣誓すべきである。皇帝陛下の裁判所において誠実かつ勤勉に従事し、帝国法と宮廷の賞賛すべき慣行に従い、また、法が成文法たる皇帝法に相応するかぎり、諸侯領、ヘルシャフト、裁判所の証明された適宜で尊重すべきしかるべき法および慣習に

従つて、(当事者の)身分の高低にかかわりなく裁判すること、それに反するいかなることに心をも動かされず、また、裁判所に係属しているか係属するであらう事件につき、当事者あるいはその他の誰からも、いかなる贈与、利得を自らあるいは他の者によつて收受せず、また、訴訟上特定の当事者を利することや、判決に際して付加することを試みたりせず、事件に関する評議において審議されたことを当事者にも誰にも公表せず、また、訴訟を悪意から止めたり遅延させたりせず、すべてを悪意なしに行なうこと。

II. Des richters und beysitzer eyd. Item. die alle sollen zuvor der keys. maj. geloben und zu den heiligen sweren, sr. keys. gnad gericht getreulich und fleißig obzusein und nach des reiches recht und loblicher ubung des hofs, auch nach redlichen, erbarn und leidlichen ordenungen, statuten und gewonheiten der fürstenthumer, herrschaften und gericht, die für sie bracht werden, so ferrn die ordnung und satzung keys. geschriebner recht gemæß und leidlich sein, dem hohen und dem niedern gleich zu richten, und kein unredlich sach sich dogegen bewegen zu lassen, und von partheyen oder niemand, keiner sachen halben, so in gericht hangt oder hangen wülrde, gabe, schencke oder einigen nutze durch sich selbs oder durch andre zu nemen, auch kein sundre parthey im gericht oder anhangen und zufalle in urteiln zu suchen oder zu machen, und was in ratslagen von sachen gehandelt wülrde, den partlien oder niemand zu öffnen, auch die sachen aus böser meynung nicht aufhalten oder verziehen on alles gevede.

第3条 しかし、終局判決が下された後、宮廷裁判官あるいは陪席判決人が当事者から「グルデン」の価値ある一度ないし数度の食事に敬意を込めて悪意なく招かれたとき、彼等は、当事者の名譽を侮るべきでなく、帝國法はこれを許しているとして受けることができる。これは尊重に値する慣行である。

III. Ob aber nach erkannten entlichen urteiln von partlien dem hofrichter oder den beysitzern einen oder mer von eßenspeiß eins gülden werth ungewerlich zu einer erung geschenkt wülrde, sollten sie die erbarkeit der partlien darinnen nicht verachten und möchten solches annehmen, als des reichs recht solches auch erlaubt, und eine erbere

bung ist.

第4条 裁判所書記の宣誓。さらに、二名の信頼しうる裁判所書記および一名のレージャーは、皇帝陛下に対してつぎのことを宣誓すべきことを命ぜられる。彼等の職務に誠実に従事して記録し、当事者にも誰にも、事件につき裁判官と陪席判決人の評議において審議されたことを公表せず、守秘すべき裁判所の業務を許可なく誰にも公表、閲読させず、また、終局判決が下された後の一グルデンを除き、仕事外で特別な贈与、利得を收受せず、あるいは、彼等の利得となることを收受させず、つぎに述べられるように、すべてを悪意なしに行うこと。

IV. Gerichtschreiber eydt. Item es sollen geordent werden zween glaubhaftige gerichtsschreiber und ein leser, die auch der keyserlichen maj. globen und sweren sollen, ihrem amt getreulich obzusein und aufzuschreiben, und den partheyen oder niemand zu offnen, wes von den sachen in ratslegen des richters und urtheilern gehandelt wirt, die heimlich gerichtshandel on laub und erkenntniß niemant offnen, leßen oder sehen laßen, auch kein besunder schenck noch nutz, außertalß iher arbeit zu nemen oder ine zu nutz nemen lassen, ausgescheiden eins guldin werdt, nach entlichen urteilen, alles, wie nechst gemelt ist, alles on geverde.

第5条 さらに、裁判所によりアドヴォカートあるいはレイトナー職に採用された者は、つぎのことを宣誓すべきである。彼等が引受けあるいは命ぜられた事件を当事者のために勤勉に訴訟上遂行し、法に従い悪意を用いようとせず、また、事件の秘密を損なうことを公表せず、裁判所と裁判所構成員を敬い助け、裁判所の面前では敬意をもって行動し、誹謗中傷せず、これに違背したときは裁判所の裁量により処罰され、すべてを悪意なしに行うこと。

V. Item die advokaten oder redner, so das gericht zu solchen aempfen aufnimmt, sollen globen und sweren, daß sie die sachen, so sie annehmen oder in bevolhen werden, iren partheyen zu gut mit vleis handeln und dörin kein geverlichkeit suchen oder furnemen wollen, wie recht sey, auch heimlichkeit der sachen zu schaden nicht eröffnen, das

gericht und gerichtspersonen ern und fürdern und vor gericht erberkeit geprauchen und lästerung bey pene nach ermessung des gerichts sich enthalten, alles ungeverlich.

第6条 さらに、カンマー裁判官および陪席判決人は、事件につき裁判所の面前で陳述するプロクレーター（レイトナー）が分別があり勤勉であるよう監督すべきである。彼等は、その採用の際、つぎのことを宣誓すべきである。当事者のために事件につき誠実に訴訟し、事件において意識的に真実でないことを用いず、あるいは、訴訟の引き延ばしのため悪意で期日を延期せず、これをおこなうことを当事者に教示せず、（勝訴して）得た一部をめぐって当事者と約束せず、また、裁判所および裁判所構成員を真実でないことで侮辱せず、敬い助け、裁判所の面前では誹謗中傷せず、これに違背したときは裁判所により処罰され、すべてを悪意なしに行うこと。

VI. Item cammerichter und beysizer sollen ansehen haben, daß die procuratores und redner, die sachen vor gerichten handeln, vertendig und fleißig sein, die auch in irem aufnehmen globen und sweren sollen, den partheien ihre sachen getreulich zu handeln, kein unwarheit wissentlich in sachen zu gebrauchen oder geverlich schub und dilation zu verlengeru der sachen, des die partheien zu thun, oder zu suchen nicht unterweisen, daß sie um ein anzahl des, so erlangt würde, mit der partheien nicht vereinigt sein, auch das gericht und die gerichtspersonen zurücke mit unwarheit nicht schmeihen, sondern ern und fürdern, und vor gericht bey penen und strafe nach erkenntniß des gerichts lästerung und schande sich zu enthalten, alles on geverde.

第7条 諸侯、グラーフ、ヘレン、騎士、都市は、事件を彼等のアンヴァルト（レイトナー）あるいはその他の者により、事件につき自ら陳述しようとするときは、各人はこれをおこなう権限を有するが、そのアンヴァルト（レイトナー）あるいは当事者は、陳述が許可される前に上述の宣誓をおこなうべきである。

VII. Item ob fürsten, graven, herren, ritterschaft oder stette durch ire anwelde oder redner oder anch andre ire

sachen selbst reden oder handeln wollen, des yderrmann zu tun macht hat, so sollen dieselben anwelde und redner oder die parthei diesen vorgenommen eydt thun, zuvor und ehe die zu handeln zugelassen werden.

第8条 さらに、宣誓した送達吏は、記載することができるとともに、裁判所書面を関係者に、都合のよいときは手渡し、さもなければ、彼等の日常居住家屋か、書面に示された場所において誠実に交付し、同じ内容の写しを彼等にあるいはその場所に置いてくるべきである。また、書面に日時と場所を記載し、これにつき誠実に裁判所あるいは裁判所書記に報告すべきである。そして、これらすべてを自らおこない他の誰にも委ねるべきでない。

VII. Item die geschwornen boten sollen schreiben können und die gerichtsbriue denjenigen, die die betüren, ob sie füglich mögen, zu handen oder aber in ihre gewöhnliche behausung oder heynewesen oder an die end in den briven angezeigt getreulich antworten, und copeien in gleich lauts inen oder an denselben enden lassen, auch des zeit und statt auf die briue mit ihren henden zeichen, und des getreulichs dem gericht oder gerichtsschreiber relation thun, und das alles selbst tun und nymants anders bevelhen.

第9条 裁判所の信頼しうる宣誓した送達吏は、皇帝陛下の帝国内およびすべての選帝侯領、諸侯領、グラーフシャフト、ヘルシャフト、オーバーカイト内の至る所において、選帝侯、諸侯、グラーフ、ヘレンなどから護送、保安、庇護をうけるべきである。上述のオーバーカイトのいずれかで、一名あるいは数名の送達吏が、裁判上の業務につき被害をうけたときは、そのオーバーカイト内において被害が生じた選帝侯、諸侯、グラーフ、ヘレンなどは、被害額を支払うべきである。同様に、送達吏の路銀や皇帝の紋章が奪われたときは、これを悪意なく引渡し、また皇帝陛下に対する侵害侮辱の不敬については、侵犯者とその援助者一味に対して、彼等の朕におこなった義務の下に、能力のかぎりで真剣に処置し処置させるべきである。

IX. Item des gerichts glaubhaftige geschwornen boten sollen allenthalben im reiche der keyserlichen majestät und



in allen churfürstenthümern, fürstenthümern, graveschaften, herrschaften und oberkeiten, iglichs churfürsten, fürsten, graven, herren und andern geleit, sicherheit und schirm haben; und ob in einicher der vorgemelten oberkeit die boten, einer oder mer, in gerichtzgeschafft beschiedigt würden, solt derselbig churfürst, fürst, grave, herre oder andre, in des oberkeit die beschiedigung beschuen wäre, solich scheden ablegen, so viel sich des boten zertung und das keyserliche wappen, op ime das genommen were, ungeverlich liefern und auch um den frevel der verletzung und verachtung der keyserlichen majestät gegen den beschiedigern, iren gönnern und anhangern nach vermogen mit ernst handeln, und handeln laben, bey den pflichten, so sie uns verwand seyn.

第10条 さうに、一名あるいは数名の陪席判決人の、あるいは、一名の裁判所書記が職を辞したときは、カンマー裁判官は陪席判決人あるいはその多数の者と協議して、皇帝陛下の同意の下に、先に規定された宣誓にもとづき、同じ身分の他の者を採用して補充すべきである。

X. Item so der beysitzer einer oder mere oder auch ein gerichtschreiber abkeme, solt der cammerichter macht haben, mit rate der beysitzer oder des meretails mit der kays. maj. wissen und willen einen andern des gleichen stands anzunemen und die stat zu ersetzen, doch uf glubd und eyde, wie vorgeschrieben.

第11条 さうに、帝國領域からの当事者にとつて、裁判費用の他に訴訟につき相当の費用がかかり、それにより、当事者がしばしば(経済的に)破滅したので、以後、第三審への二回目のアペラチォーンは、本案(の訴額)が二〇〇グルデンを超えないときはカンマー裁判所によつて受理されず、原審の判決が尊重されるべきである。

XI. Item als über den gerichtskosten den partheien aus den orten des reichs meriglich kost und zertung uf die sachen geet, dadurch die partheien vilmalh zu verderben kommen, solten hinfür die zweite appellation zu der dritten rechtvertigung, so die hauptsache nicht über zweyhundert gülden antrefte, durch das cammergericht nit angenommen, sondern

bey den fordern urtheil gelassen werden.

第12条 さらに訴訟を促進し、また、当事者の陳述を確実にし、幾度か生じた混乱を防止するため、以後は当初三〇〇グルデン以下の悪意なくなされたすべての事件は、書面にて審理されるべきである。従つて、一方の当事者が陳述をおこなったときは、必要に応じて、相手方にその写しが与えられ(期間の)猶予が認められるべきである。また、三〇〇グルデンを超える事件においても、当事者が同意するか一方の当事者がこれを要求したときは、この事件も、先に述べた理由から、書面に陳述されるべきである。

Ⅹ. Item zu fürderlicher vertigung, auch gewißheyt der parthey fürbringens und irrung, die zu zeiten sich erzeiget hat, zu verhuten, sollen hinfür alle sachen, die sich anfänglich under dreyhundert gülden ungerichtlich treffen, in schriftten gehandelt, also daß iglicher teil sein fürbringen schriftlich tue und dem widertheil des abschrift und schub gegeben werden, wie die notdurfft das ervordern würde. Ob auch in grössern sachen die parteyen sich verwilligten, oder aber ein theyl des begert, so sollten dieselben sachen auch schriftlich werden gehandelt, uß ursachen wie vor gemelt.

第13条 さらに、すべての召喚状および裁判所書面は皇帝陛下の御名と称号とにおいて交付されるべきである。裁判官と陪席判決人は、委任によるコミッサル、下級裁判官としてではなく、皇帝陛下に任命された者として、皇帝陛下に服するすべての等族の事件につき正規に裁判すべきである。

XIII. Item alle citations und gerichtsprive sollen ußgeen in namen und titel der keys, maj. und richter und beysizer, nicht in crafft eines bevelhs, als commißarien und underrichter, sundern als ernante von der keys. majestät ordentlich richten und erkennen über alle stände in sachen, der keys, maj. unterworfen.

第14条 さらに、第一審としてのカンマー裁判所は、いかなる者の訴えにもとついても、皇帝陛下と帝国に直屬しておらず、

しかも正規の裁判官を有する者に対して召喚を認めるべきでない。誰かがこれを獲得したとしても、これにもとづいてなされたすべての行為とともに無効であり、召喚状を交付させた者は、帝国法と選帝侯等の自由特権によりこれがなされたときは、それにもとづき相手方に生じた費用と損害を支払い義務を負う。

XV. Item das cammergericht soll in der ersten instanz oder rechtfertigung auf niemants clag oder ansuchen ladung erkennen oder geben gegen denjenigen, die der keyserlichen majestät und dem reiche nicht on mittel unterworten sein, und doch sunst iren ordenlichen richter haben; und ob ymand die erlangt, solt mit samt allem handel darauf gevolgt null und uncräfttig, und der darüber ladung übrecht, kost und scheden, ob die dem widerteil darauf gangen wern, abzulegen schuldig sein, wann solchs des reichs rechten gemesse und in freyheiten der churfürsten und ander verrast ist.

第15条 さらに、誰かが召喚される事件は、被告が指定された期日まで事件につき報告することができ、アンヴァルトを指示とともに派遣することができる程度に召喚状において特定されるべきである。躊躇と後退にもとづく訴訟遅延と出費を避けるためである。

XV. Item in den ladungsbriven sollen die sachen, darun yemand gefordert oder geheischen werdet, bestimmt werden, dernaß daß der antworder zu der sachen auf gesetzte täge bericht sein möge oder seinen anwald mit unterrichtung schicken, lengerung der sachen und kosten, der aufs bedencken und hinderbrenge geen würde, damit abzusneide.

第16条 さらに、この時点で、カンマー裁判所は、帝国内の適当な都市に設置・開廷され、そこに存置されるか、あるいは、当事者が事件につき学識者を迎えることができる他の適当な都市に移されるべきである。皇帝陛下が、長期間そこに留まって宮廷を開くために充分なだけ腰をおろすようになるまで。

XVI. Item zu dieser zeit solt das cammergericht an ein gelegen statt im reiche geleg, gehalten und doselbst gelassen werden, oder an ein ander trefenlich stadt gerickt werden, do die partheien gelarte und wissende leut zu ihren sachen bekommen mögen, biß so lang die keys. maj. sich wird niderlassen, ein gut zeit doselbst zu verharren und hofe zu halten.

第17条 裁判所を帝国都市における租税から免除させることが悪意なしに考えられる。

XVII. Gedenckt, das gericht ungelts und beswertung in reichstädten zu freyen, ungewerlich.

第18条 さらに、この企てを考慮すれば、カンマー裁判官、陪席判決人、および、裁判所に待機する義務のあるその他の者に対して誠実に給料を支払うことが必要である。だが、これらすべては皇帝陛下の支払いによりなされうであらうか。それ故に、訴訟につき手数料が定められ、また裁判所書面も相当な方法により査定されるべきである。すなわち、各原告は、訴訟の開始にあたり、訴額により、一〇〇〇グルデンごとに二グルデン、一〇〇〇グルデンを超える訴額については、一〇〇グルデンごとに一グルデン、訴額が二〇〇〇グルデンを超えるときは、一〇〇グルデンごとに二分の一グルデンを支払うべきである。手数料と呼ばれるこの金額は、終局判決により費用と損害を負担すべきとされた当事者が勝訴当事者に支払う。また、単純な召喚状は一箇所につき一グルデン、禁止状つき召喚状は一箇所につき二グルデン、強制状については一箇所につき二グルデン、証拠調べのコミシオンについては一箇所につき六グルデン、すべての事柄を含めて事件につき終局判決まで委ねられたコミシオン、アペラチオン事件のコミシオン、判決書については、その数と手数料につき先に示されたようにして支払われるべきである。この手数料から裁判所構成員の給与が支払われる。また、命令書などの交付が、裁判により認められ、あるいは、当事者の申立にもとづき必要であるとして、裁判外で認められたときは、しかるべき方法で査定され、当事者はこれにつき過重な負担を課されてはならない。

XVIII. Item nach ansehen diß fürnemens ist not, cammerrichter, urteiler und ander personen, die dem gericht

verpflichtet und zu warten verbunden sein sollen, redlich zu versolden, das doch alles von der keyserl. maj. darlegen gesehenen möcht. Deshalb sollten sportuñ auf die sachen gesetzt und die gerichtsbrieve ziemlicher weißaxiert werden, nemlich solt ein jeder clager, im anfangk des rechtens von der summ in seiner clag bestimt von yeden hundert gülden zween gülden, und der summ, die sich über tausend gülden lief, ye vom hundert ein gülden; aber so die summ über zwey tausend gülden lief, von dem übrigen ye von hundert ein halben gülden geben. Solch gelt, sportule genannt, die parthei, die nach der entlichen urteil in die kosten und scheden geteilt wirdet, der behabenden partheyen widergeben und ausrichten. Es solt auch für ein schlechte citation ein gülden und ein oht, für ein citation, darin eine inhibition inserirt were, zween gülden und ein oht, für compulsorial-oder zwangs-brieve zween gülden und ein oht, für ein commission, kundschaft oder zeugniß zu verhören, 6 gülden und ein ort, und für ein commission, in welcher ein ganze sach mit allen anhängen und umstenden zu endlichen entscheid bevolhen wirdet, auch für ein commission in appellationssachen und für urteilbrieve gegeben und genommen werden, nach anzaie, auch auf masse und weise, wie vor von den sportulis angezeigt ist. Von solchem geld den gerichtspersonen ir solt volgen und ausgericht werden solt. Ob auch gebots-oder ander brive durch rechtlich erkenntniß zu geben erkant oder sunst auf ansuchen und zu notdurfft der partheien ausserhalb rechtlichs erkenntniß gegeben und ausseen wurden, dieselben sollen auch nach ziemlicher leidlicher weise taxirt, und die partheien darinn nit übersetzt noch beswert werden.

第19条 人は一方の当事者の懈怠に対してどのように追行すべきか等。をうに、当事者が訴訟においてまず召喚されたとき、原告も原告側の何人も出席せず、従つて、訴訟が訴えと答弁により成立していないときは、原告は、被告の申立にもとづき懈怠とされ裁判費用支払判決をうける。しかし、訴訟が訴えと答弁により成立しているときは、裁判所は訴訟を続行して、審理の状況に応じて原告勝訴あるいは被告勝訴の判決を下すことができる。だが、懈怠しなかった当事者は、たとえ敗訴しても、裁判費用の支払義務はない。

XIX. Wie man uff ungehorsam einichts teyls volfar etc. Item, so parthein zu recht erstlich erfordert und vertragt sein, erscheint der clager nit oder nymand von seinen wegen, also daß die sach mit clage und antwort unverfast ist, so

soll uf des antworters anrufen der cläger ungehorsam und den gerichtskosten abzulegen erkant werden; were aber die sache mit clage und antwort verfast, so möcht das gericht vollfaren und urteiln für den cleger oder antworter, nach gestalt des gerichtshansels; doch solt der gehorsame teil, op derselbe die urteil verlohnen hette, den gerichtskosten abzulegen nicht schuldig sein.

第20条 また、被告が第一審あるいは上訴審において懈怠したとき、裁判所は、原告の申立により証拠調べをおこない、終局判決に至るまで訴訟を進行すべきである。懈怠者勝訴の判決がなされたとき、懈怠しなかった原告は費用と損害の支払いを免れるべきである。

XX. Wird auch der antworter in der ersten rechtvertigung oder in der appellationsach ungehorsam, so solt durch des clägers anrufen das gericht kundschafft und ander fürbrennen hören und vollfaren biß zu entlicher urteil; und ob für den ungehorsamen urteil gesprochen würde, so solt doch der gehorsame cleger der kost und scheden entledigt werden.

第21条 さらに、<sup>(1)</sup>判決の執行と正義の促進のために、宮廷裁判官は、これまで皇帝陛下が親裁的におこなったように、裁判所の判断にもとづき追放刑の判決を下しこれを宣言する権限をもつべきである。裁判所は、それにもとづき、さらに召喚状を認め、訴訟を進行し、また、事件において最も適当と看做される別の方法を通して執行すべきである。

XXI. Item zu volstreckung der urteil und fürderung der gerechtigkeit soll der hofrichter macht haben, uf erkenntniß des gerichts die achturteil zu sprechen und in die acht zu verkünden, wie die keys. maj. hie vor persönlichen gethan hat, und das gericht ferner proceß darauf geben und vollfarn und auch durch ander weg execution thun, wie die in igher sachen die füglichsten angesehen werden.

第22条 さらに、悪意で訴訟を遅延させるインターロクトリアと呼ばれる中間判決からの不要で軽率なアペラチオンにより、日毎、多額の費用と損害を被っているので、以後、カンマー裁判所は、皇帝法に規定されているように、終局判決にもとづくアペラチオンにより回復可能な不服が主張されているときは、このような中間判決にもとづくアペラチオンを受理すべきでない。

XXII. Item als teglich durch unnotdirtig und freveiche appellaciones, die von beyurteilen, interlocutoria genant, geverlich verlengerung des rechten beschehen, auch vil kost und scheden erlitten werden, soll hinfür das cammergericht die appellaciones von solchen interlocutorien nicht annehmen, wo die beswerung in der appellation bestimt, durch die appellation von den enturtel der hauptsachen möcht erstat und widerbracht werden, wie das in kays. rechten geordent und begriffen ist.

第23条 さらに、カンマー裁判所は、裁判所の正規の形式や判断からは得られない、あるいは、両当事者により同意された原状回復や延期により妨げられることなく、その決められたとおりの手続を行なうべきである。

XXIII. Item das cammergericht soll seinen stracken lauf haben, unverhindert einlicher restitution oder aufsege, die aus ordentlicher form und erkenñiß des gerichtis nicht erlangt oder durch beede parthien gewilliget weren.

第24条 さらに、裁判所書面が皇帝陛下の称号、御名、印璽の下に交付されるべきとき、裁判所書面以外の書面がそれによって作成されないために、裁判所には、皇帝陛下の書記局の印璽と同様であるが少し異なる印璽が必要である。

XXIV. Item so die gerichtshrive ausgeen sollen under titel, namen und sigel der keys. maj. so ist not, daß darauf bey dem gericht ein sigel oder secret sey, gleich der kays. maj. cantzleisecret, doch mit etwas unterscheide, auf daß

nichtz dann gerichtzhändel darunter mögen verrytzt werden.

第25条 さらに、カンマー裁判所は、神を敬うためあるいは人のために決められた祭日の日を除いて、悪意なく各週に三日間開廷されるべきである。

XXV. Item das cammergericht soll drey tag in yder woche werden gehalten, ausgescheiden was Got zu lobe oder zu notdurfft der menschen gebante feren sind, ungerichten.

第26条 朕は、また、誰からもそのオーバーカイト、特権、自由を剝奪せず留保しようとする。だが、帝国追放者をかくまうことを許されている者があるときは、朕は、この自由が皇帝カンマー裁判所の判決の執行に対して用いられず、追放者が保護されるべきでないことを欲する。

XXVI. Wir wollen auch nymannt hiemit sein oberkeit, privilegien oder freyheit benennen und abschneiden, sondern vorbehalten haben, yedoch ob ymant begnadigt wer, des reichs echter zu halten, wollen wir daß dieselben freyheit wider vollstreckung der urteil unsers keyserl. cammergerichts nicht gebrucht, und die echter dawider nicht sollen geschützt oder enthalten wetden.

### 三 帝国カンマー裁判所法（一四九五年八月七日）

本條は「*die Reichs-Kammergerichtsordnung*」(Hg.) H. Angermeyer, Deutsche Reichstagsakten Maximilian I. Mittlere Reihe, Bd. V. Bd. 1. Tl. 1., 1981, S. 383-420, *Veröffentlichungen der Reichs-Kammergerichtsordnung*, Teil. 2, 1913, S. 4-11.; J. J. Schmauss u. H. Ch. Seckenberg, aao.,



Bd. II, S.6-11.; G. M. Ludolf, Corpus Juris Cameralis, 1724, S.1-7.を参照した。なお H. Angermeier, aaO., S.383-420. には「一四九五年法と対比して」、一四九五年のウォルムスの帝国議会に提出された三つの草案「すなわち、①帝国侯案(Kftl. Entwurf der Reichskammergerichtsordnung(以下「Entwurf I」として引用))、②選帝侯案に都市の利益を加味して修正された草案 (Entwurf der Reichskammergerichtsordnung, der vom Kftl. Entwurf abhaegig ist, aber im Lentrese der Städte liegende Korrekturen aufweist(以下「Entwurf II」として引用))、③諸侯案(Frl. Entwurf der Reichskammergerichtsordnung(以下「Entwurf III」として引用))が掲載されているので、必要なかぎり各条文の註においてこれらにも触れることにした。(なお、各草案の出典については、H. Angermeier, aaO., S.380f.を参照のこと)。

また、一四九五年法については、すでに勝田教授による部分訳と有益な解説がある。勝田有恒「帝室裁判所規則(一四九五年)」(西洋法制史料選III(一九七九)、一六頁以下)、同「帝室裁判所規則(一四九五年)の成立」一橋論叢六八巻四号一頁以下。本稿でも随時参考にさせて頂いた。この場をかりてお礼申しあげたく思う。

(1) 一四九五年の帝国カンマー裁判所法の成立経過を簡単にみておくと、まず、一四九五年四月二八日に選帝侯の草案(Entwurf I)が提出され、おそらく五月の中旬には諸侯と一多分一帝国都市の部会に送付された。諸侯部会のこの草案に対する審議は五月二一日から行われ、この草案との対決の中で、五月二一日と六月の当初の間に諸侯の草案と、恐らく帝国都市に利害のある断片的な変更提案を伴った草案が成立した。選帝侯とその他の帝国諸侯は一つの共通の草案への了解に達することができなかったの—とりわけ、第一条と第三〇条とが争われた—七月八日に国王に内容の異なる草案が渡された。このことは、国王マクシミリアンに帝国カンマー裁判所法の成立に対する影響力を及ぼす機会を与え、彼の要求を貫徹することと彼の考えで両者を仲介することを試みようであるが、その後の選帝侯とその他の帝国等族の審議に対して国王の影響力がどの程度のものであったかは史料が欠けているためにつまびらかでない。六月末と七月末の間の審議において、選帝侯とその他の帝国等族は争われていた裁判所の設置(第一条)と仲裁手続(第二八—三〇条)の問題について利害の調整に努力し、これに成功した結果として、彼等は七月二六日に国王に共

通の一つの草案を提出した。国王はこれに僅かの修正を加えただけで八月四日に受け入れ、それが一四九五年八月七日に帝國カンマー裁判所法として公布された (H. Angemeier, aaO., S.379)。

(2) 以下、ディック (B. Dick, aaO., S.13-16) に依拠して、一四九五年法の概要につき述べておくことにしたい。

一四九五年のウォルムスの帝國議會とその八月七日の帝國カンマー裁判所は、はじめてカンマー裁判所を皇帝の人的裁判権から解き放った。一四九五年法はその限りでまず第一に国制上の政治的な意義を有していたのである (これに對して、スメントは国王カンマー裁判所と帝國カンマー裁判所との相違を強調しない。R. Smend, aaO., S.5)。手続の進行については、この法はただこれまでの訴訟から生じた疑問点についてのみに規定した。それ故、一四九五年法は、根本的な創造行為ではなく、長期にわたる生成過程の重要なひとつまであるにすぎなかった。王室カンマー裁判所との密接な結合は、この裁判所のプロトコレが続けて使用され、新しいものとしてはただ判決本がおかれたにすぎないことが明らかにしている (H. Lieberich, Frühe Reichskammerprozesse aus dem bayerischen Reichskreis, in: (Hg.) H. Lentze u. P. Putzer, Festschrift f. E. C. Hellbing, 1971, S.433.; R. Smend, aaO., S.70)。一四九五年法は基本的に一四八六年草案に従っている。さらに、一四八六年法はその特質において一四七一年のカンマー裁判所法を基盤としている。しかし、全体として、帝國カンマー裁判所の等族的要素への傾斜は、例えば仲裁 (Arbitrag) に関する規律から読み取れる。裁判所構成法的な最初の規定は、カンマー裁判所長と並んで一六名の陪席判決人を定めている。一六名の内、半分は法学識者であり、他の半分は騎士出身者であるべきとされる。学識者の登場は、この当時の裁判所に徐々にローマニカノン法が浸透してきていることを示している。一四九五年法は秘密の判決評議につき多数決原理を持ち込んだ。陪席判決人が意見同数に場合には裁判所長に決定権があった。陪席判決人と裁判官の宣誓は一四八六年草案の学識法に対する義務を受け継いでおり、贈賄と訴訟の意図的な遅延を禁止している。一四七一年のカンマー裁判所法にすでに確定され、ドイツ法上の伝統にもとづく裁判所の慣行に対応する弁護士身分のプロクラートルとアドヴォカートへの分離はそのままであった。貧困権付与の可能性も同様であった。訴訟において悪意で行為しないという当事者による不悪意の宣誓は、その機能や意義を明らかにすることなく、この関係ではじめて言及された。

一四九五年法は固有の手續規定については、先行のカンマー裁判所法あるいは草案と同様、乏しいものであったが、召喚状などの裁判所書面、並びに、そのカンマー送達吏による送達につき触れている。当事者は全ての訴訟において書面手續に決定することは自由である。必要な写しを得る相手方の同意は必要でない。宮廷裁判所との比較にとって意義のあるのは、一四八六年の草案におけると同様に、この一四九五年法において、なお、事件全体がすべての事柄を含めて終局判決に至るまで委ねられるコミシオンが規定されていることである。以後は、このようなコミシオンは、通常手續では存在せず、一五五五年の帝国カンマー裁判所法はコミシオンをただ証拠調べについてだけ規定している。一四九五年の帝国カンマー裁判所法においては、この法の基礎となった一四八六年草案の簡略な規定よりも懈怠の効果はもっと明確になっている。原告も彼の法的代理人としも誰も出頭しなかったときは、原告は、被告の申立にもとづき訴訟費用の支払い義務が生じるとともに、被告は、訴訟すなわち召喚から解放される。訴えは、今回につき取り下げられたものとされるのである。訴訟がすでに争点決定の後にあるときは、帝国カンマー裁判所は、手續を続行することができ、訴訟の状態に従って裁判することができ、出席当事者は、たとえ敗訴した場合にも訴訟費用を負担しない。懈怠した被告に対しては、この法は原告に対して三つの選択権を認めた。訴訟続行、追放刑の宣言、財産の差押。一四八六年草案は、単に証拠調べをとらなくなった一面的な手續だけを規定した。厳然たる制裁の採用が帝国カンマー裁判所の訴訟の重さと当事者に対するその地位を強化した。財産の差押で、原告は彼の権利の暫定的な保全を獲得する。一四九五年法は一四八六年草案と同様に、彼等の特権の維持をめぐる当事者の争いを認識させる。一三条は飛越上告の禁止を規定する。領邦の上級裁判所は帝国カンマー裁判所の原審として看過されえない。一四九五年法の条文は、明らかに、ますます不訴特権によって保護される領邦の裁判所審級を維持した。帝国カンマー裁判所の第一審としての裁判権は、帝国直屬者については、仲裁手續がなされない限りで、帝国非直屬者については、裁判の拒絶の場合と訴訟遅延の場合に限られた。一四九五年法は、仲裁規定の範囲内ではすでに一四八六年草案に規定されていた救済条項を含んでいる。これは各諸侯各オーブリッヒカイトに明白に特権を残した。この法は、選帝侯、諸侯、諸侯同格者相互の、ならびにこれらの者に対する争いで法的な仲裁を承認した。その裁判に対しては帝

国カンマー裁判所への上訴が開かれていた。帝国カンマー裁判所は、その他裁判における外部からの干渉されることなく訴訟を統行すべきである。一四八六年草案にはあったものでもはや規定されていないのは、当事者によりそれにつき一致して同意されたときは遅滞は差し支えないという規定である。また、帝国カンマー裁判所の法源の展開にとって一定の役割を演じることになった。

## 帝国カンマー裁判所法

神の恩寵によりローマ国王等である朕マクシミリアンは、朕と神聖(ローマ)帝国のすべての各聖俗の選帝侯、諸侯、聖職者、グラーフ、ヘレン、騎士、クネヒト、ハウプトロイテン、ヴィツメン、フォークテン、プフレーゲン、フエアヴェーゼルン、アムトロイテ、シュトルハイス、市長、裁判官、参事、市民、ゲマインデ、その他いかなる地位、身分、制度であらうとも、すべての他の朕と神聖(ローマ)帝国の臣民、忠実な臣下に対し、朕の恩寵によりすべて良きように伝える。高貴な良き生まれの者にして尊き賞賛すべき、甥、叔父、選帝侯、諸侯、敬虔なる者、帝国の賞賛すべき忠実な臣下に答える。朕は、しかるべき理由から神聖(ローマ)帝国とドイツ国民により一般ラント平和法を作成し、導守すべきことを命じる。そして、それが、信頼にたる敬うべき有用な訴訟制度なしには存立しえないために、また汝らすべての者の助成と必要に対する公共の利益のために、選帝侯、諸侯、および、朕とここウォルムスの帝国会議の目下の協議により、朕と神聖(ローマ)帝国のカンマー裁判所を創設し開催することを企て、以下のように命じる。

第1条 第一に、帝国カンマー裁判所に聖俗の諸侯、グラーフ、ヘレンたる一名のカンマー裁判所長およびこの帝国会議の助言と意思によって今ここにドイツ国民の帝国から選出される一六名の陪席判決人を置くものとする。これらの者は気高く中庸で素行を良くし、彼等の半数は法を修得して学位をとり、他の半数は少なくとも騎士出身でなければならない。一六名の陪席判決人あるいはその多数の者が訴訟につき判断したこと、および、陪席判決人の意見が一致せず同数の場合は裁判

所長の決定したことは、そのように決せられるべきである。彼等は、訴訟上の判断につき他の者に対して義務を妨げるべきでない。裁判所長および一六名の陪席判決人はただ帝国カンマー裁判所に待機し、他の業務を負担してはならない。また、これらの者のうちいずれの者も、カンマー裁判所長は陪席判決人により、陪席判決人は裁判所長により個別の許可を受けなければ、裁判所を辞去して欠席してはならない。だが、その場合も、一度に四名以上の陪席判決人が裁判所を離れるべきでなく、カンマー裁判所長も陪席判決人も、しかるべき理由がなければ、その都度カンマー裁判所が開廷されている都市から離れることは認められるべきでない。そして、カンマー裁判所長が病氣などのしかるべき理由により、カンマー裁判所に留まることをかなりの期間妨げられるときは、彼は裁判所長の権限を陪席判決人の同意の下に陪席判決人のうちの一名、とくにグラーフあるいはフライヘレンがカンマー裁判所の陪席判決人であるときは、その者に委ねるべきである。カンマー裁判所長と一名あるいは二、三、四名の陪席判決人が欠席していても、出席している陪席判決人は、あたかも彼等すべてが出席しているかのように判決を下し、訴訟において審理する権限を有する。ただ、選帝侯、諸侯あるいは諸侯同格者自身に関する事件がカンマー裁判所の面前で審理されるときは、カンマー裁判所長自らが着席するか、上述のようなしかるべき理由からこれをなしないときは、陪席判決人の同意の下にもう一名の諸侯、グラーフ、あるいはフライヘレンを彼の代わりとすべきである。この者はカンマー裁判所長の代行となるので、つぎの宣誓をおこなう義務がある。<sup>(1)</sup>

Wir Maximilian von Gottes gnaden Röm. K. g. etc. embieten allen und yegliehen unsern und des Hl. R. Kff. Ft. gesistlichen und weltlichen, prelaten, Gff. freyen Hh., rittern, knechten, hauptleuten, vitztumen, vogten, pflegern, verwesern, ambleuten, schultheysen, Bm., richtern, reten, burgern und gemeinden und sunst allen andern unsern und des Hl. R. undertanen und getreuen, in was wiriden, stats oder wesens die sein, unser gnad und alles gut. Erwidigen, hochgebornen, wolgebornen, ersamen, edlen, Ib. neven, oheimen, Kff., Ft., andechtigen und des Reichs Ib. getreuen. Wir haben aus beweglichen ursachen einen gemeinen landfriden durch das Hl. Röm. R. und T. N. anfericht und zu halten geboten, und nachdem derselbig on redlich, erben und fuderlich recht swerlich in wesen besteen möcht, darumb, auch gemainen nutze zu furdung und noldurften ewr aller unser und des Hl. R. cammeergeicht mit zeitgem rate ewr, der

Kff, Ft. und gemeiner besanlung auf unsern und des Reichs tag hie zu Wurms aufzuwichten und zu halten furgenommen und geordnet in form und massen, als hernach volgt.

1. Zum ersten, das camergericht zu besetzen mit einem richter, der ein geistlich oder weltlich F. oder ein Gf. oder Fh. sey, und 16 urtheilern, die alle wir mit rate und willen der samblung itzund hie kiesen werden aus dem Reiche T. N., die redlichs, erbers wesens, wissens, ubung und ye der halbeil der urteyler der recht geleit und gewirldt und der ander halbeyl auf das geringist aus der ritterschaft geporn sein sullen. Und eas die 16 urtailer oder der mere teil in sachen erkennen und, ob sy spemung und auf ieglichem teil gleich weren, welchem dann der richter einen zufall tut, dabey sol es beleben, und sol sy an dem rechtlichen erkennen kein andere pflicht verhydern oder irren. Fs sollen auch der camerichter und die 16 urtailer des camergerichts allein auswarten und mit andern hendeln unbeladen beleiben, sich auch ir keiner dem gericht entziehen oder abwesen sein on sunderlich erlawbung, die der camerichter von den camerichter erlangen sullen; doch so sullen auf dhein mal mer dann 4 urtailer vom gericht sein und weder dem camerichter oder den urteylern aus der stat, da das camergericht ye zu zeiten gehalten wirdet, erlaubet werden one merklich swere ehafft. Und so der camerichter durch krankheit oder merklich ehafft des camergerichts zu warten ein zymliche zeit verhyndert wurd, so sol er seinen gewalt mit wissen und willen der urtailer bevelhen der urtailer einem und sunderlich einem Gf. oder Fh., so der einer am camergericht ein urtailer were. Und in des camerichters, auch der vernelten eins, zweytr, dreyer oder vierer urteyler abwesen sullen die andern urtailer dennoch urteyl zu sprechen und in recht zu handeln macht haben, als ob sy all entgegen weren. Allein, so eine oder mer sachen am camergericht wurden gehandelt, einen Kf., F. oder furstnessigen fur sich selbs antreffent, in der-oder denselben sachen sol der camerrichter selbs sitzen oder, so er das mit tun mocht aus ehafften obgemelt, auch mit wissen und willen der urteyler einen andern F., Gf. oder Fh. an sein stat setzen; derselb F., Gf. oder Fh. auch den nachvolgenden eyd sweren, der ine pinden sol, dieweyl er den camerichter wirdet verwesen.

- (一) Entwurf I じち' 一二名の陪席判決人、六名を選帝侯が各一名、他の六名を諸侯およびヘンが任命するとなつて  
 栄ら' Entwurf III じち' 同つて一二名の陪席判決人を、ローマ皇帝と帝國議會 (die Samlung) が合つて選ばるゝ  
 べいし' 栄ら' Vgl. R. Smeid, aaO., S.25.

第2条 さらに、陪席判決人のうち一名あるいは数名が(裁判所を)辞去したときは、朕は、その都度、選帝侯、諸侯およびその年に集まつた帝國議會、あるいはそれらの者の代理人と協議して、辞去した者の代わりに別の有能な者を置こうとする。しかし、カンマー裁判所長が死亡し、その存命中に陪席判決人と協議して次回の帝國議會まで期間の代行者を任命せず、朕が近隣におらないが、その故にカンマー裁判所の活動を停止することができないときは、陪席判決人は、彼等のうちから一名を、とりわけ、彼等のうちにグラーフあるいはフライヘレンがいるときは、その者をカンマー裁判所長に選ぶべきである。その者は、朕あるいは朕の代理人が、選帝侯、諸侯、その他の等族あるいはその代理人と協議して代わりの新たなカンマー裁判所長を任命する次回の帝國議會のまで期間、カンマー裁判所長の職務を代行すべきである。

2. Item sodert urteylt einer oder mer avkeme, so wellen wir zu jeder zeit mit rate und willen Kff, Ft. und der samblung, die desselben jars zusammenkumen werden, oder irer anwelde an des-oder der selben stat andere tugliche personen setzen. Sturbe aberder camerichter und verordndt bey seinem leben mit rate und willen der urtayler keinen an sein stat bis auf die nechst versamblung, weren wir dann nit in der nehe, umb das dann das camergericht nit feyern bedurffe, so sollen die urteylt einen aus inen zu camerichter kiesen, sunderkichen einen Gf. oder Ph., so einer unter inen were. Der sol das ambr verwesen bis auf die nechsten versamblunge, das wir oder unsere anwalde mit rate und stende oder irer anwelde ein andern camerichter an des abgegangen stat setzen.

(1) Entwurf Iでは、陪席判決人と並んで、書記、レーザーについても同様に規定され、陪席判決人については、欠けた陪席判決人を選んだと同じ選帝侯が同じ身分の後任を選び、その他の陪席判決人および書記、レーザーについては、カンマー裁判所長と他の陪席判決人が同じ身分の他の者を採用すべきとされている。Entwurf IIIでは、カンマー裁判所長、陪席判決人ともに、帝國統治院(Reichsregiment)の長および構成員(president und rat)が選ばれてい

### 第3条 裁判所長と陪席判決人の宣誓。

また彼等すべての者は前もつて国王皇帝陛下と神聖なる神に対してつぎのことを宣誓しなければならない。すなわち、帝国カンマー裁判所において誠実かつ勤勉に従事し、帝国普通法、証明された諸領および裁判所の適当で尊重すべきしかるべき法、条例および慣習により、(当事者の)身分の上下を問わず、知力を尽くして公正に判決を下し、それに反するいかなることも心を動かされず、また、当事者あるいはその他の誰からも裁判所に係属しているか係属するであらう事件について、いかなる祝儀、贈与、利得を自らあるいは他の者によつて、人がたくらみうるごとくに、收受あるいは收受させないこと。また、訴訟において特定の当事者を利したり、判決において付加したりしようとせず、また、当事者に対して相談や注意をせず、また、判決の前後を問わず、当事者にもいかなる者にも、事件につき、評議されたことを公表せず、悪意で訴訟を止めて遅延させず、すべてのことを悪意に行わないこと。<sup>(1)</sup>

### 3. Des richters und der beysitzer eyde.

Item die all sullen zuvor unser kgl. oder ksl. Mt. geloben und zu den heiligen sweren, underm kgl. oder ksl. camergericht getreulich und mit vleyse obzusein und nach des Reichs gemainem rechten, auch nach redlichen, erbern und leydenlichen ordnungen, statuten und gewohnheiten der Fft., Hftt. und gericht, die fur sy bracht werden, dem hohen und dem nydern nach seinem besten versteinus gleich zu richten und kein sach sich dagegen bewegen zu lassen, auch von den partien oder yemands anders keiner sachen hab, so in gericht hangt oder hengen wurden, kein gab, schenk oder einichen nutz durch sich selbs oder andere, wie das menschen sym erdenken möchte, zu nemen oder nemen lassen, auch kein sunder party in gericht oder anhang und zufall in urteilen zu suchen oder zu machen und keiner partien raten oder warnen und was in ratslegen und sachen gahandelt wirdet, den partien oder nymands zu offnen vor oder nach der urteyl, auch die sachen aus böser maynung nit aufhalten oder verziehen, one alles geverde.

(1) Entwurf I では、法文の後半に、判決後、カンマー裁判所長や陪席判決人が当事者から一ターラーの価値のある香料を貰うことは許される旨の規定(一四八六年草案第三条参照)が付加されている。



第4条 さらに、当事者あるいはその権限あるアンヴァルトの申立にもとづき、カンマー裁判所長により認められ、集録のためにカンマー裁判所に任用された書記により記録されるのでなければ、召喚状を交付すべきでない。その召喚状が当事者に送達されるときは、公証人かカンマー裁判所の宣誓した送達吏によっておこなわれなければならない。彼等各人は、これを記載し読むことができ、原告に対しては、告知の日時と場所を召喚状の写しに記載して署名すべきである。被告に対しては、<sup>(1)</sup>召喚状を置いて、これを交付した公証人あるいは送達吏は、送達したことをその者の名前とともにそれに記載すべきである。

4. Item es sol kein citation oder ladung ausseen, sy sey dann auf ansuchen des principals oder seins gemechtigeten anwalds durch den camerichter erkannt und durch den schreyber, der zum lesen am camergericht aufgenommen und verordnet wurdet, registrirt. Und sullen dieselben citation oder ladung durch niemanden den partien exequirt werden, dann durch offenbare notarien oder die geschwornen des camergerichts boten. Dieselben sullen ir yeder schreyben und lesen kunnen und dem clager die execution auf die copy der citation oder ladung, auch die zeit und stat der verkundung under iren namen schreyben, und den antwurtern sullen sy die citation oder ladung lassen, und der notarius oder bot, der sy antwurt, die execution mitsamt benennung seins namans auch darauf schreyben.

(1) Entwurf I には、送達の権限のある者として、カンマー裁判所の送達吏のみが記載されている。

#### 第5条 裁判所書記の宣誓

さらに、帝国カンマー裁判所には二名の信頼できる裁判所書記および裁判所の業務を司る一名のレーザーが任命されるべきである。彼等は、国王皇帝陛下あるいは陛下に代わるカンマー裁判所長と神聖なる神に対し、つぎのことを宣誓しなければならぬ。すなわち、記載、整理といった彼等の職務に誠実に従事し、また、裁判所に提出された文書を確実に裁判所に

保管し、裁判官と陪席判決人の事件につき評議されたことを当事者にも誰にも公表しないこと。また、誰に対しても秘密の裁判所業務を閲覧により公表せず、提出された文書の写しを裁判所の許可なし当事者に手渡さず、当事者に相談や注意をせず、贈与を受受したり、人がたくらみうるような彼に利することを受受することなく、事件ごとにカンマー裁判所長と陪席判決人によって定められた報酬で満足し、すべてのことについて悪意なしにおこなうこと。

##### 5. Gerichtschreyber eyde.

Item an das camergericht sollen verordent werden 2 glaublich gerichtschreyber und 1 leser, der die gerichtshandel verware. Die sullen unserer kgl. oder ksl. oder dem camerriichter an unser stat globen und zu den heiligen sweren, irem ambt getreulich obzudein mit aufschreyben, lesen und andern, auch die brief und urkunde, die in gericht pracht werden, getreulich bey dem gericht zu bewaren und den parteien oder nyemand anders zu eroffnen, was von den sachen in ratslegen des richters und urteiler gehandelt wirdet; auch die heimlichen gerichtshendi nyemands zu offnen, lesen oder sehen lassen und dhein copey von den einprachten briefen und schriftten den parteyen geben on erlaub und erkanthus des gerichts; auch dheiner parteien wider die andern raten noch warnen und dhein schenk nemen noch ime zu nutze nemen lassen, wie menschen synn das erdenken möcht, sunder sich ired lons, der durch camerriichter und urtaler gesetzet wirdet, in yeder sachen lassen benugen, alles one argeist.

(一) Entwurf I には、wie menschen 以下の法文が欠けている代わりに、レーザーについてのより詳しい規定と判決後の当事者からの一ターラーの価値のある食事をうけることを許す規定がある。

##### 第6条 レートナーの宣誓

さらに、帝国カンマー裁判所によって思慮ある者としてレートナーの職に採用された者は国王皇帝陛下あるいは陛下の代わるカンマー裁判所長と神聖なる神に対し、つぎのことを宣誓すべきである。すなわち、訴訟事件につき弁論の依頼を受けたレートナーは、その訴訟において当事者のために信義を尽くして主張し、知力を尽くして当事者のために懸命に陳述をし、

そこで、故意にいかなる不実・不正もおこったり、訴訟の引延ばしのために期日を延期させたりせず、そして、このようなことをなすように当事者に教示しないこと。また、レイトナーとなった訴訟の(訴訟物の)一部を得る約束を当事者とせず、当事者から聞き知った秘密や自ら気づいた訴訟について知っていることを当事者を害するために誰に対しても公表しないこと、裁判所および裁判所構成員を敬い助け、裁判所の面前では敬意を用い、侮辱せず、これに違背したときは裁判所の裁量による処罰に処せられること、加えて、カンマー裁判所法によりその者に帰属する報酬につき、当事者を増額その他の約束で圧迫しようとしないうこと、報酬につきレイトナーと当事者の間で意見のくい違いが生じたときは、これについてはカンマー裁判所長と受命された陪席判決人に委ねられ、彼等によりいかに裁判されようともそれで満足してそれに従うべきこと、また、しかるべき理由およびその訴訟上の判断なしに、引き受けた訴訟から下りようとせず、当事者のために誠実に訴訟の最後まで訴訟行為をおこなうこと、すべてを悪意なしに。

## 6. Der redner eyde.

Item die redner, so das gericht zu sollichem ambt aufnymbt, sullen verständig sein und unser kgl. oder ksl. Mt. oder dem camerichter an unserer stat globen und zu den heiligen sweren, das sy die parteien, der sachen zu handln sy annemen, in denselben sachen mit ganzen und rechten trewen meinen und solich sachen nach irem besten verstantus den parteien zugut mit vleyse furbrinen und handln und darynnen wesentlich keinerley falsch ider unrecht geprachten oder geverlich schub und dilacion zu erlengerung der sachen suchen und des die partey zu tun oder zu suchen mit underweysen; auch mit den parteien dheynerley vorgeding oder vorwort machen, ein teyl von der sache, der sy im rethen redner sind, zu haben zu warten; auch heimlichkeit und behelt, so sy von den parteien emphaen, oder underrichtung der sachen, die sy von ine selbs merken werden, iren parteyen zu schaden nymands offenbaren, das gericht und gerichtspersonen eren und furdern und vor gericht erberkeit geprachen und lesterung bey pene nach ermessung des gerichts sich enthalten; darzue auch die parteien uber den sold oder lone, der ine nach laut der ordnung uber das camergericht gepurt, mit merung oder andern geding nit besweren oder erhoehen wollen; und ob solds oder lons halb zwischen ine und den parteien irrung oder spenne entstunden, desselben zu beleiben bey dem camerichter und den urteylern, die er zu

ine nemen oder den er das bevelhen wirdet, und wy sy durch dieselben entscheiden werden, des benugig zu sein und es dabey beileiben zu lassen; das sy sich auch der sachen, on redlich ursach und des rechten erkanntus nit wellen entslagen, sonder iren partien getreulich bis zu ende des rechten handln, alles ungerich.

第7条 アドヴァカーターも、このような宣誓をすべきである。すなわち、当事者に誠実に訴訟につき助言し書面を作成するものとして、また関連しうるかぎりは上述の宣誓をも加えてすべきである。<sup>(1)</sup>

7. In solcher maß sullen auch sie advocaten sweren, iren partien zum rechten getreulich zu raten und zu handeln, mit ferrerin anhang obgeschribens eyds, sovil sy auch beruren mag.

(1) Handlung ない一般に書面および書面による陳述を証拠とせん(Vgl. L. A. Würfel, Kurzgefasstes Cameral-Lexicon der in der Kaiserlichen und Reichs-Cammergerichtsordnung(1766), S. 52; A. Laufs, Die Reichskammergerichtsordnung von 1555(1976), S.302)。このように handeln といふのはアドヴァカーターの職務の内容を勘案して書面の作成を語った(Vgl. R. Smend, aaO, S.342))。

第8条 さらに、一般人が、不当にアドヴァカーターおよびレイトナーにより、過重に負担させられないために、カンマー裁判所長と陪席判決人は、裁量により事件や当事者の状況に応じて各事件につき支払われる(額)を決めるべきである。<sup>(2)</sup>

8. Item damit auch der gemain man unpillicherweyse durch advocaten und redner nit beswert werde, so sullen camerrichter und urteiler zu ernessen haben, was nach gestalt der sachen und party solle von yeder sach gegeben werden.

(1) Entwurf I びだ' so sullen camerrichter und urteiler 以下の規定が欠けており、その代わりにつきこのような趣旨の規定になっている。各アドヴァカーター、レイトナーは、(訴訟額が)二〇〇〇ターラーまでは、ニターラーあるいは同

価値のニライニッシュ・タラー、二〇〇〇タラーを超える事件では、そのあととはどこまでも二〇〇〇タラーごととにニターラーあるいは同価値のニライニッシュ・タラー以上の報酬を受け取るべきでない。一つの事件で、アドヴォカートとレートナーが異なるときは、この限りでなく、当事者は、各人に上述したところの半額以上を支払う義務はない。しかし、当事者が誰かを年間報酬でアドヴォカートあるいはレートナーに任命しようとするときは、しかるべく容易になしうるために、これをその意思により、あるいは、これを自らもちうるようになることができる。

第9条 さらに、当事者は、他の当事者もアドヴォカートおよびレートナーを確保しうるように、一つの訴訟において、カンマー裁判所にいる一名以上のアドヴォカートおよびレートナーを採用せず、そこにおいて、悪意が用いられるべきでない。また、そのために、アドヴォカートあるいはレートナーは、その当事者が彼等をその事件のアドヴォカートあるいはレートナーに採用しようとするのでなければ、事件につきその者を助言すべきでない。

9. Item kein party sol mer dann einen advocaten und redner, dem camergericht verwandt, in einer sachen aufnehmen und bestellen, damit die ander party mug auch advocaten und redner bekumen, und sol daryn thein gewerlichkeit geprauchet werden. Darumb sol auch kein advocat oder redner einicher party in iren sachen raten, dieselbig party welle ine dann zu advocaten oder redner in der sachen aufnehmen.

第10条 さらに、諸侯、高位聖職者、グラフ、ヘレン、騎士、都市が、彼等自身の訴訟につき、同行した、あるいは、派遣したアドヴォカートもしくはレートナー、あるいは、その他の者によって陳述しようとするときは、これをおこなう権能を有する。だが、これら者是不善意と正義につき宣誓すべきである。相手方あるいは裁判所が求めるときは、各当事者あるいはそのレートナーは同じ宣誓をすべきである。<sup>(1)</sup>

10. Item ob Fi., prelaten, Gff., Hh., ritterschaft oder stete durch ir anwelve oder redner, die sy mitprechten oder schicken oder ander personen in ir selbst sachen wolten reden oder handln, das sullen sy zu tun macht haben, doch das

dieselbigen geloben und sweren de calumpnia et malicia vitanda prout de jure; denselben eyde yede party oder ir anwelde auf des widerteils oder des richters gesynnen auch tun sullen.

(1) Entwurf I<sup>1)</sup>には、最後の denselben eyde yede party 以下の法文が欠けている代わりに、これらの者は、アドヴォカート、レイトナーに法律上認められている報酬の半額の支払い義務があり、これを集めて、四半期ごとにカンマー裁判所長は、アドヴォカート、レイトナーに配分すべきとの規定がある。

第11条 さらに、宣誓した送達吏は、記載することができ、裁判所書面を交付するのに適当なときは関係者に、さもなければ、彼等の日常の居住場所、あるいは、書面に記載された場所、あるいはカンマー裁判所長と陪席判決人によって決定されたごとくに誠実に差し置き、さきに召喚状がいかに交付し告知されるべきかという条文に定められたように送達すべきである。彼等は、このことおよび報告を裁判所と裁判所書記に対して自ら誠実に行い、ほかの誰にも委ねるべきでない。また、送達吏は、マイルごとのしかるべき報酬で満足すべきである。しかし、これにつき彼等と当事者との間に意見のくい違いが生じたときは、カンマー裁判所長と受命された陪席判決人がそれにつき決定したごとくに裁判したところを、当事者と彼等は尊重し、それに従うべきである。そして、カンマー裁判所に採用された送達吏が誓約すべき宣誓の形式のすべては、カンマー裁判官と陪席判決人によって定められるべきである。しかし、誰かが公証人によって召喚状を送達させようとするときは、その者は先に条文において規定された形式においてこれを行うことができる。<sup>1)</sup>

11. Item die geswornen boten sullen schreyben können und die gerichtsbrief denjenen, die die beruren, ob sy fuglich nugen zu handen oder aber in ir gewondlich behausung oder heimesen oder an die ende, in den briefen angezeigt, oder wie sy durch den camerichter und urteyler beschaiden werden, getwewlich antwurten und es mit der execucion handeln und halten, wie hievor bey dem artikel, wie die citacion und ladungen ausgeen und verkundt werden sullen, angezeigt und gesetzt ist. Und das sy solichs, auch die relation dem gericht und gerichtschreyber getwewlich selbst tun und nyemands anders befehlen. Dieselben gerichtsboten sullen sich auch von yeder meyl einer zymlichen belonung benngen

lassen. Wurden aber des zwischen ine und den parteyen irrung, wie sy dann der camerichter und die urteiler, den das bevolhen wirdet, darumb entscheiden, dabey sullen es die parteyen und sy beleiben lassen und dem also nach kumen. Und des alles sol durch den camerichter und urteyler ein form eins eyds gestellt, den die boten, die zum camergericht aufgenommen werden, sweren sullen. Ob aber ymands durch offen notarien wolt die citacion oder ladung exequiren lassen, der mag das tun in der form, wie in dem artikel hievor davon begriffen ist.

(1) Entwurf I には、最後の ob aber ymands 以下の注文が欠けている。

第12条 さらに、宣誓をした送達吏、さらに送達をおこなう公証人も、国王皇帝陛下の帝国、選帝侯領、諸侯領、グラーフ領、ヘレン領の至る所において、すべての選帝侯、諸侯、高位聖職者、グラーフ、ヘレンその他同様のオーバーカイトから安全を確保され被護を受けるべきである。<sup>(1)</sup>

12. Item dieselben geswornen boten, auch die notarien, so execution tun, sullen allenthalben im Reiche unsrer kgl. oder ksl. Mt. und in allen Kfft. Fft. und oberkeiten yeglichs Kf, F., prelaten, Gf., H. und ander geleit, sicherheit und schirm haben.

(1) Entwurf I u. III には、公証人が欠けているほか、Entwurf I は一四八〇年草案第九条と同様であり、また、一二三条との間に一四八六年草案第一一条が挿入されている。

第13条 さらに、直近の通常の上級裁判所を飛越した上訴は受理されるべきでない。

13. Item es sol kein appellacion angenommen werden, die nit gradatim gescheen were, das ist an das nechst ordenlich obergericht.

第14条 さらに、訴訟を促進し、当事者の陳述を確実にし、幾度か生じた混乱を防止するため、以後、各当事者に訴額の多少にかかわらず、事件につき書面による陳述が許されるべきである。そして、いずれかの当事者がこれを求めたときは、他方の当事者はこれを妨げることはできないが、相手方には必要に応じてその写しが与えられ(期間の)猶予が認められるべきである。<sup>(1)</sup>

14. Item zu furdertlicher fertigung, auch gewiſheit der partien furbringens und irrung, die zu zeiten sich erzaigt hat, zu verhuten, sol hinfuro einen yeden zugelassen werden, seine sachen, die betreffen vil oder wenig, in schriftten fuzupringen; und welche party des begern wurde, das sol die andern party nit zu verhyndern haben, doch das dem widerteil des abschrift und schub werde gegeben, wie die notdurft das wurde erfordern.

(1) Entwurf I は、一四八六年草案と同様であり、Entwurf II u. III は一四九五年法とはば同様。

第15条 さらに、すべての召喚状および裁判所書面は朕の御名と称号において交付されるべきであり、しかも裁判所書面において、カンマー裁判所と陪席判決人は同じ文言で記載されるべきである。

15. Item alle citation und gerichtsbrieſe sullen ausgeen in unsern namen und titel, aber in die gerichtsbrieſe sullen camerriichter und urteyley mit namlichen worten gesetzt werden.

第16条 さらに、国王皇帝陛下の直屬者であつて、その上正規の裁判官を有する者に対しては、いかなる者の訴えに基づかうとも、第一審裁判所としてのカンマー裁判所により召喚が認められることはない。ただし、その者が正規の下級裁判所に對して訴訟を提起したが、明確に(裁判を)拒絶され、あるいは、悪意により(訴訟が)遅延された場合はこの限りでない。ある者がこのような召喚状を得たときは、これに続くすべての行為を含めて無効であり、その上、召喚状を得た者は、これに



もつと相手方に生じた費用と損害の支払義務を負う。

16. Item das cammergericht sol in der ersten instanz oder rechtvertigung auf nyemands clag oder ansuchen ladung erkennen oder geben gegen denjenigen, die unser kgl. oder ksl. Mt. und dem Reiche nit on mittel underworfen sein und doch sunst iren ordenlichen richter haben, es were dann sach, das er vor denselben ordenlichen undergerichten recht ersucht und kuntlich versagt oder mit geveden verzogen were. Und ob yemand solch ladung oder citacion erlangt, solt mitsamt allem handel, darauf gevolgt, nulla und uncreftig und der daruber ladung ausbrecht, kost und scheden, ob die dem widerteil darauf gangen weren abzulegen schuldig sein.

第17条 さらに、ある者が召喚される事件は、召喚状において、被告が指定された期日に陳述し、あるいは、指示をしてア  
ンヴァルトを派遣することができると程度に特定されるべきである。それによって、躊躇と後退にもつと生じるであらう訴  
訟の遅延を避け、費用を節約するためである。

17. Item in den ladungsbriefen sullen die sachen, darumb yemands gefordert oder gehaischen wurde, bestimbt werden  
dermaß, das der antwurter zu der sache aufgesetzte teg bericht sey oder seinen anwald mit underrichtung schicken  
munge, lengerung der sachen und costen, der auf das bedenken und hynderbringen geen wurde, damit abzuschneyden.

第18条 さらに、カンマー裁判所は帝国内のある適当な都市に設置されるべきである。そして、カンマー裁判所長、陪席判  
決人、アドヴォカート、レイトナー、書記、送達吏、およびその他カンマー裁判所構成員、および、彼等のすべての下僕と  
家僕は悪意なく租税さらにはその他の裁判所強制を免れる。だが、彼等は宿舍、商業を悪意なく営むべきでない。また、当  
事者、アンヴァルト、派遣された者は、カンマー裁判所で訴訟をするための安全を確保され護送されるべきである。しかし、  
カンマー裁判所構成員、カンマー裁判所で訴訟しなければならぬ当事者、アンヴァルト、派遣された者に対して、ある者  
により不法な犯行がなされたときは、裁判官は、直ちに、その者をその地で引き取らせ、遅滞なくカンマー裁判所長と陪席

判決人に引き渡すことを命じるべきである。囚われているときは、このような不法行為者を逮捕し、彼等の犯行に応じて処罰することができる。また、侮辱された者には、カンマー裁判所長と陪席判決人により満足を得させ、事件が身体刑を要するときは、その地のラートに処罰を命じるべきである。<sup>(1)</sup>

18. Item das camergericht soll gehalten werden im Reiche an einer tuglichen stat, und sullen daselbst camerichter, urteyley, advocaten, redner, schreyber, boten und all ander personen, zum camergericht gehorende, und ir aller diener und ungerverlich hausgesind ungetls und beswerung, auch ander gerichtsweng frey sein, doch sullen sy nit gasting oder kaufmanschatz geprauch ungerverlich, auch die parteien, ire anwelde und geschickten, sie am camergericht zu handeln sicherheit und gleit haben. So sich aber von den personen, zum camergericht gehorende, oder den parteien, iren anwelden oder geschickten, die am camergericht zu handeln hetten, frevel oder malefitz begeben, die sullen der richter desselben ends alsbald annemen lassen und zu yeder zeit on verzug dem camerichter und urteyley bestellen zu antworten. Denselben sol ein turn oder gefengnus zugegeben werden, daryn sy solich mißhandler enthalten oder sunst nach maß irer verhandlung strafen mugen. Auch sol dem belidigten durch den cammerichter und urteyley vergebung werden verhoffen oder, ob die sache leybstrafe erheische, zu strafen dem rat gemelter stat bevelhen.

(1) Entwurf I は、前段のみでかつ、宿屋、商業に関する部分が欠けている。Entwurf II u. III には裁判所が設置される適当な都市として帝國統治院の所在地が挙げられ、後段でも、カンマー裁判所長と陪席判決人の代わりに、統治院の長と構成員が登場している。

第19条 さらに、この企てを考慮すれば、カンマー裁判官、陪席判決人、および、裁判所に待機すべきその他の構成員に対して相당한給与を支払う必要がある。そのために、訴訟事件に対する手数料が規定されるべきである。すなわち、すべての原告は、訴訟の開始時に訴額を考慮して、一〇〇〇グルデンまでは、一〇〇ライングルデンごとに二グルデン、ついで、一〇〇〇グルデンから二〇〇〇グルデンまでは、一〇〇グルデンごとに一グルデン、さらに、二〇〇〇グルデンから三〇〇〇

グルデンまでは、一〇〇グルデンごとに二分の一グルデン、ついで、三〇〇〇グルデンからは、一〇〇グルデンごとに四分の一グルデンを、従つて、原告は、上記の規準に従つた正しい計算による合計額を支払うべきである。終局判決によつて費用と損害の負担を命じられた当事者は、この手数料と呼ばれる金銭を勝訴した当事者に支払い、裁判所の構成員に対する給与はこの手数料から支払われるべきである。しかし、この手数料がそのためには足りないときは、不足分は帝國租税から支払われる。

19. Item nach ansehen dieses furnemens is not, camerrichter, urteyl'er und ander personen, die den gericht verpflicht und zu warten verpunden sein sullen, redlich zu versolden. Deshalb sullen sportule auf die sachen gesetzt werden. Nemlich sol ein yeder clager in anfang des rechten nach achtung seiner clag von yedem hundred rh. fl. 2fl. geben bis auf 1000 fl. und darnach von 1000 fl. bis in 2000 fl. von yedem hundred 1 fl.; ferner von 2000 fl. bis in 3000 fl. von yedem hundred 1 / 2 fl. darnach von 3000 fl. fur und fur, sovil es sich treffen wirdet, ye von 100 rh. fl. 1 ort cins fl. und also nach anzal der summa, wie sich dann das von ir yeder nach zymlicher rechnung in obgeschribner maß nach seiner anzale treffen wirdet. Solich gelt, sportule genannt, die party, die nach der endlichen urteil in die cost und scheden geteilt wirdet, der behabenden party widergeben und ausrichten, von demselben gelt den gerichtspersonen ir sold volgen und ausgericht werden soll. Ob aber solich davon nit volkumenlich bescheen mocht, sol das iberig von des Reichs gefellen entricht werden.

(一) Entwurf I の内容は、ほぼ一四八六年草案第一八条の内容と同じ。Entwurf II u. III では、最後の法文におつて、統治院が帝國租税から支払うとなっている。

第20条 さらに、また、單純な召喚状については、一箇所につき一グルデン、禁止状付きの召喚状については、一箇所につき二グルデン、強制状については、一箇所につき二グルデン、証拠調べのためのコミシオーンについては、一箇所につき六グルデン、事件につきすべての事柄を含めて終局判決を下すように委ねられたコミシオーンについては、一箇所につき一二

グルデン、上訴事件におけるコミシオンについては、一箇所につき一〇グルデン、判決書については、事件の規模に従ってカンマー裁判所の判断によつて、(それぞれの額が)徴収される。さらに、命令書などが裁判所の決定により交付されるべきとき、さもなくば、必要とする当事者の申立にもつき裁判所の決定なしに交付されるべきときは、しかるべき方法にてカンマー裁判所により査定されるべきであつて、これにつき当事者に過重な負担をおわせてはならない。

20. Item es sol auch, fur ein schlechte citacion 1 fl. und 1 ort, fur ein citacion, daryn ein ynhibicion inserirt wirdet, 2 fl. 1 ort, fur ein compulsorial oder zwangsbrief 2 fl. 1 ort, fur ein commission, kuntschaft oder zeugnus zu verhoren 6 fl. 1 ort, fur ein commission, in welcher ein ganze sach mit allen anhangen und umstenden zu endlichen entscheid bevolhen wirdet, 12 fl. 1 ort, fur ein commission in appellacionsachen 10 fl. 1 ort und fur die urtheilbrief sol gegeben und genomen werden nach groß der sachen und erkanntus des camergerichts. Item ob auch gebot oder ander briete durch rechtlich erkanntus zu geben gepuren oder sunst auf ansuchen und zu notdurft der parteyen ausserhalb rechtlichs erkanntus gegeben und ausgeen wurden, dieselben sullen auch nach zymlicher, leydlicher weyse und nach erkanntus des camergerichts taxirt und die partien daryn nit ubersetzt oder beswert werden.

#### 第21条 一方の当事者の懈怠に対する遂行方法。

さらに、当事者が初めに裁判所に召喚されたが、原告も原告側の誰も出席せず、訴訟が訴えと答弁によつて成立していないときは、原告は、被告に申立にもつき、不服従とされ、裁判費用の支払いを命ぜられ、被告は、申立にもつき訴訟すなわち召喚から解放されるべきである。しかし、訴えと答弁によつて訴訟が成立しているときは、裁判所は訴訟を続行し、裁判所の審理の状況により原告あるいは被告を勝訴させることができる。しかし、懈怠していない当事者は敗訴しても裁判費用の支払義務はない。

#### 21. Wie man auf ungehorsam einichs teyls vollfare.

Item so die partien zu recht anfenglich gewordert und verlagt sein, erscheint der clager nit oder nyemands von seinen

wegen, so die sache mit clage und antwort unverfaßt ist, so solle auf des antworters anrufen der clager ungerhorsam und den gerichtskosten abzulegen erkannt und der antworter auf sein begern ab instancia judley, das ist von der ladung, absolvirt werden. Were aber die sache mit clag und antwort verfaßt, so möchte das gericht volfrarn und urteyl in fur den clager oder antworter nach gestalt des gerichtshandels; doch solt der gehorsam teyl, ob derselb die urteil verlorn hette, den gerichtskosten abzulegen nit schuldig sein.

第22条 また、被告が、第一審あるいは上訴審において、争点決定前に懈怠したときは、原告の申立にもとづき、懈怠した被告に対して、裁判所による追放刑あるいは重追放刑、さらには、被告財産に対する差押のための手続がなされ、あるいは、裁判所は、原告の申立にもとづき、証言などを聴取し、訴訟を遂行して終局判決を下すべきである。原告がいかなる手段をとろうとも、懈怠した当事者が勝訴しようとも、懈怠しなかった原告には費用と損害の支払義務はない。

22. Wurde auch der antworter in der ersten rechtverfugung oder in der appellationsach vor bevestigung des kriegs ungehorsam so sollte doch auf des clagers anrufen durch das gericht zu der achte und aberacht, auch zu dem einsatz ex primo decreta wider den ungehorsamen antworter procedirt werden oder sol das gericht auf begern des clagers kuntschaft und ander furbringen hören und volfrarn und endlich urteil geben. Welchen weg der clager funnemen wirdet und ob fur den ungehorsamen teil urteil gesprochen wurde, so sol doch der gehorsam clager der cost und scheden entledigt werden.

第23条 さらに、カンマー裁判所長と陪席判決人は、当事者の申立にもとづき、追放刑を認める権能をもつ。そして、カンマー裁判所長は、認められた追放刑を言い渡し、これにつき必要な執行状の付与を認めるが、すべてを国王皇帝陛下の御名において行なう。

23. Item der camerichter und urteiler sullen macht haben, auf anrufen der partheyen in die acht zu erkennen und der

camergericht, die erkannten darein zu sprechen und notdurftig executorial und proceß darüber zu geben erkennen, alles in unserer kgl. oder ksl. Mt. namen.

第24条 さらに、中間判決と呼ばれる判決からの不要で軽率なアペラチオンにより日毎、悪意で訴訟が遅延し、多額の出費と損害が生じているので、以後、カンマー裁判所は、アペラチオンにおいて特定された不服が、皇帝法に規定されているごとく、本案の終局判決にもとづくアペラチオンにより償い回復されうる場合には、このような中間判決にもとづくアペラチオンを受理すべきでない。

24. Item als teglich durch unnotdurftig und frewelich appellacion, die von beyurteilen, interlocutorie genannt, geverlich umb verlengerung des rechten bescheen, auch vil costs und scheden eritten werden, so soll hinfuran das camergericht die appellacion von solchen interlocutorien nit annemen, wo die beswerung, in der appellacion bestimbt, durch die appellacion von der endurteil der hauptsach möchte erstatt und harwiderpracht werden, wie das in ksl. rechten geordent und begriffen ist.

第25条 さらに、カンマー裁判所は、通常的方式、あるいは、カンマー裁判所の特別なコミシオンに向けての決定によらない、<sup>(1)</sup>原状回復、申立、移管、その他の方法による（手続）の延期に妨げられずに手続を決められたとおり続行すべきである。<sup>(2)</sup>

25. Item das camergericht sol seinen gestrakten lauf haben unverhindert einicher restitution, supplicacion, advocacion oder in ander wege aufschlege, die aus ordenlicher form oder erkanntnus des camergerichts auf sonderlich commission nit erlangt weren.

(1) Entwurf I には、さらに、当事者の同意のある場合が付加されている。

(2) strackenkauf とくち Vgl. Grimm, Deutsches Wörterbuch, Bd.18, S.595.; B. Dick, aaO., S.19.; J. Poetsch, aaO., S.60.

(3) Entwurf II u. III には、「二五条について、前段が一四八六年草案の第二四条に対応し、後段が「また、その印璽はしばしば使用されるが、つねにカンマー裁判所長の背後の戸棚に、カンマー裁判所長と宣誓した印璽者の封印のもとに保管されるべきである。裁判所長と印璽者は、この印璽を誰に対しても他の業務で用いてはならない」との内容の条文が挿入されている。

第26条 さらに、カンマー裁判所は、神を讃えるためあるいは人の必要のため決められた祭日を除いて、一週間に三日開廷されるべきである。この祭日にカンマー裁判所長と陪席判決人は互いに集い、そこで彼等が後に公布する規定を作成すべきである。<sup>(1)</sup>

26. Item das camergericht sol 3 tag in der wochen werden gehalten, ausgeschaiden, was Got zu lobe oder notdurft der menschen gepaunt ferie sein; derselben ferien sich camerichter und urteyler miteinander vereinen und darynnen ordnung machen, die sy auch furter offenbarlich verkunden aullen.

(1) Entwurf II u. III では、互いに集うにつき、帝国統治院の同意をえることが必要とされている。

第27条 さらに、いかなる者も貧困のために訴訟上の救済を放置されるべきでないので、カンマー裁判所長は、その都度注意して、宣誓を求め、その貧困さが証明された貧困者の事件を、これにつき、適切に助言し訴訟で陳述をなすために、アドヴォカート、レイトナーに委ねるべきである。カンマー裁判所長により、このような事件を委ねられたレイトナー、アドヴォカートは、異議を唱えることなく、上述のようにこれを引き受ける義務を負い、これに違背したときは、職務剝奪の処罰を受けるべきである。だが、一件以上複数の事件があるときは、カンマー裁判所長は、公平にアドヴォカート、レイトナーに分配し、すべてを悪意なしなすべきである。また、貧困者が、時としてなす軽率な策動を予防するため、貧困者は、もと

められたときは、カンマー裁判所長に対し、彼が相手方に対する勝訴などにより、レートナー、アドヴォカートにその報酬を支払うことができる収入状態になったときは、支払いをなさうとすることを宣誓すべきである。

27. Item auf das nyemands armut halb rechtlos gelassen werde, so soll der camerichter, so ye zu zeiten sein wirdet, die sachen der armen, die ir armut mit iren eyden, ob der gesunnen wirdet, erweyen, den advocaten und rednern empfehlen, daryn zu raten und zunn besten in recht furzupringen. Und welchem redner oder advocaten solich sachen von dem camerichter empholhen werden, der sol schuldig und pflichtig sein bey der pene entsetzung seins amts, die on widerrede, wie vorgemelt, anzunemen. Doch so sol der camerichter, ob der sachen mer wurden dann eine, die gleich under die advocaten und redner teylen, alles on geverde. Umb das auch derwege freyenlichs und mutwilligs umbtreynens, das die armen zu zeiten funemen, furkumen werde, so sol der arm, von dem das begert wirdet, dem camerichter an eydesstat globen, sobald er durch behaltus gein seinem widertail oder sunst zu solicher narung kumme, das er die redner und advocaten ireds entrichten muge, das er dasselbig tun welle.

第28条 聖俗界の選帝侯、諸侯、諸侯同格者の一方が他方に対して有するあるいは取得した請求をめぐる彼等の訴訟手続はつぎのように行われるべきである。相互の間に個別的に締結された法的な仲裁契約があるときは、彼等相互の間ではこれによるべきである。このような仲裁契約のないときは、原告である選帝侯、諸侯、諸侯同格者は、彼が権利を持っていると主張する聖俗界の選帝侯、諸侯、諸侯同格者を記載し、その書面において、その者に対して権利を示すとともに権利をめぐつて訴訟を行いたい旨の申立をなすべきである。それに対して、記載され要求された聖俗界の選帝侯、諸侯、諸侯同格者は、このような要求の後四週間内に、原告に対して、一つの家門出身でなくかつ聖俗界二名づつの四名からなる統治している選帝侯、諸侯、諸侯同格者を公正に指名し、原告は、その中から一名を裁判官に選び、指名の後の四週間内に彼の通知書面により、訴えられた選帝侯、諸侯、諸侯同格者に対して、彼の宮廷において告知し、ついで、両当事者によりその者に対し、一四日の内に受託と期日の指定とを依頼すべきである。また、その者は、これ「この職務」を国王あるいは皇帝のコミサリ



ウスとして、朕がローマ国王として各人に対してなそうとしたコミシオンの効力において、受託し訴訟を遂行すべきである。その選ばれたコミサリウスは公正に彼の地において迅速に開廷期日を指定し、彼の中立的な顧問とともに事件につき裁判所において聴取し、しかるべく裁判をなすべきである。しかし、当事者は、先に示したアベラチオンの受理の可否に関する規定に従い、帝國カンマー裁判所に対するアベラチオンを奪われない。選ばれたコミサリウスが、訴訟の終結前に辞去したときは、原告は、他の三名の提案された選帝侯、諸侯、諸侯同格者の内からもう一名の者を選ぶべきである。その者は、また、先に規定されたように、国王あるいは皇帝のコミサリウスとしてそれを受託すべきである。そして、裁判所において、辞去した選帝侯、諸侯、諸侯同格者の面前で審理されたことがその者の前に提出され、さらに訴訟において何が法であるかが明らかにされるべきである。そして、上述のコミサリウスは、各人に対し、できる限りに迅速に事件を審理し、不公正な訴訟の遅滞は許されない。しかし、上述の期間内に、被告が、選帝侯、諸侯、諸侯同格者を指名しないか、あるいは、異議を述べてその者に従わないときは、原告に対し、帝國カンマー裁判所の前にいてその権利をめぐる訴訟を速かにすべきである。<sup>(3)</sup>

28. Item mit rechtverteilung Kf., Ft. und furstmessigen, geistlicher und weltlicher, umb spruch und vordnung, die ir einer zu dem andern hette oder gewunne, sol es also gehalten werden : welche sunderlich gewilkurt rechtlich austrag gegeneinander haben, der sullen sy sich laut derselben gegeneinander geprachen. Welche aber dieselben austrag gegeneinander nit hetten, so sol der clagende Kf., F. oder furstmessig den Kf., F. oder furstmessigen, geistlich oder weltlich, an den er spruch oder vordnung vermeint zu haben, beschreyben und ime sein spruch oder vordnung in solcher schritt anzeigen mit ersuchen, ime darumb rechts zu pflegen. Darauf sol der beschriben und erordnet Kf., F. oder furstmessig, geistlich oder weltlich, in 4 wechen, den nechsten nach solcher ervorderung, dem clager 4 regierend Kf., Ft. oder furstmessigen, halb geistlich und halb weltlich, die nit aus einem haws geborn seyen, ungewerlich benennen, daraus der clager einen zu richter kyesen und denselben dem angesprochen Kf., F. oder furstmessigen auch in 4 wochen nach der benennung, obgemelt, ungewerlich durch sein kuntlich schritt an seinen hof verkunden und sy von beiden teil alsdann denselben in 14 tagen, den nesten darnach, umb annemen und tagsatzung bitten, des auch derselb anzunemen

und vollenturn schuldig sein sol als kgl. oder ksl. commissarius in craft der commission, die wir als Rom. Kg. hiemit einem yeden getan haben wellen. Und sol derselb gekorn commissarius furderlich rechttag setzen in eine sein stat ungewerlich und mitsamt seinen unparteyischen reten der sach zu recht verhorung und, wie sich in recht gepurn wirdet, entscheid tun; doch sol dheiner parthey die appellacion fur unser ksl. oder kgl. camergericht benomen oder abgestellt sein nach laut des artikels von den appellacion, welch angenommen werden sullen oder nit, hievor begriffen. Und ob der erkorn commissarius abging ee die sache, zu end keme, sol der cleger aus den andern 3 furgeslagen Kff., Ff. oder furstnnessigen einen andern kiesen. Der sol es auch anzunemen und zu volfuren schuldig sein als kgl. oder ksl. commissarius, wie der artikel hievor angezeigt. Und das fur den pracht werde, was vor dem abgegangen Kf., F. oder furstnnessigen in recht gehandelt worden ist und ferrer in der sache ergee und beschee, was recht ist. Und sullen die gemelten commissarien yeder, so es an ine kumbt, zum furderlichsten in sachen handeln und kein geuerlicher auszug geprauht oder zugelassen werden. Ob aber der antwurter der benennung der Kff., Ff. oder furstnnessigen in obbestimpter zeit nit tete oder dem, so obsteet, nit nachvolget, so solt er dem cleger umb sein vordrung vor unserm kgl. oder ksl. camergericht furderlichs rechtens pflegen.

(一) Vgl. Grimm, Wörterbuch, Bd. 4, S. 1834.

(二) kündliche schrift 6 「陳言なる申裁裁判官のための書面による公表」云々の意味としか「Vgl. Deutsches Rechtswörterbuch, Bd. V III-1 S. 93.

(三) Entwurf I, II u. III にな、対応する条文がかけつゝる。

第29条 ちらに、各人はその者の臣民を正規の裁判所、<sup>(一)</sup>法、オーバーカイトのもとにとどめ置き、各人の諸侯領、グラフ領、<sup>(二)</sup>くゝん領の賞賛すべき伝統、慣習に従うべきである。

29. Item ein yder sol sein undertanen in seinen ordenlichen gerichten, rechten und oberkeiten beleiben lassen und halten nach eins yden Ft., Gft., Hft. und oberkeit loblichen herkommen und geprauchungen.

(一) Entwurf I, II u. III には、対応する条文がかけている。

第30条 しかし、高位聖職者、グラーフ、ヘレン、騎士、クネヒト、帝国自由都市、帝国都市が、聖俗界の選帝侯、諸侯、諸侯同格者を裁判所に訴えようとするとき、その訴訟事件は、書面によると否とを問わず、債務、約定、契約、違約、免職に關する事件である。あるいは、ある者が、聖俗界の選帝侯、諸侯、諸侯同格者がその者の狩獵權、および、関稅、護送、裁判所などに關する伝來の利用權の行使を妨げているとして訴えるとき、これらすべての場合に、原告は、選帝侯、諸侯、諸侯同格者に対して、上述のごとく、その者の顧問の前でそれをめぐり訴訟をすることをしかるべく求めるべきである。ついで、翌月までに、要求された選帝侯、諸侯、諸侯同格者は、彼の宮廷において顧問の前で、悪意なく、原告に対し裁判のために召喚し、その開廷期日あるいは次回の開廷期日までに、宮廷における九名の公正なしかるべき貴族と學識者から選ばれた顧問を裁判のために任命すべきである。しかし、その事件において、原告に対し惡しき行為をおこなったアムトマンは任命されるべきではない。被告が裁判長として指名することになる九名の内の一名が、原告あるいはそのアンヴァルトの在廷しているところで、八名の顧問から、それに対して、八名の顧問の最年長者は裁判長から、その者がこの訴訟において兩当事者が陳述したところに従って、知力を尽くして公正に且つ円滑に判決を下すとの宣誓をなさしめるべきである。また、その九名の顧問は、彼等の前で行われている訴訟事件が係屬している限り、それが判決を下すという宣誓を妨げる可能性のあるかぎり、すべての宣誓を免除されるべきである。また、原告は、顧問の前で反訴を提起されるべきでない。そして、この訴訟は、訴えが裁判所に提出された開廷日から起算して半年で終了すべきである。適法な猶予の決定により訴訟が長引いたときでも、訴訟は一年と一日で終了すべきである。そして、各人には、下された判決に不服があるときは、上述のアペラチオンに關する規定に従って、帝国カンマー裁判所へのアペラチオンが許されるべきである。原告については選帝侯、諸侯、あるいは諸侯同格者の違法な妨害<sup>1)</sup>になされ、また、多くは原告の側からなされる。また、訴えられた選帝侯、諸侯、あるいは諸侯同格者は、原告および原告の適法な随伴者あるいは原告のための派遣者に対して、開廷期日に到來して関

与するために、再び彼等の保護のために適切な護送をすべきである。だが、原告は、国王のラント平和の侵害者、あるいは選帝侯、諸侯、諸侯同格者の公然の敵あるいは加害者である者を随伴したり派遣してきてはならない。しかし、聖俗界の選帝侯、諸侯、諸侯同格者が、上述のようにして、彼等の顧問の前で裁判されることを欲しないとき、あるいは、先のごとく、原告に協力しようとしな<sup>(2)</sup>いときは、原告には、その選帝侯、諸侯、諸侯同格者をカンマー裁判所につくられたこの法に従って帝国カンマー裁判所の面前に召喚することが許されるべきである。<sup>(3)</sup>

30. So aber prelaten, Gff., Hn., ritter oder knecht oder des Reichs frey-oder reichsret einen Kf., F. oder furstmessigen, geistlichen oder weltlichen, mit recht wollen beclagen, beruten dann die sachen verbrieft oder unverbriefft schuld, zusagen oder verhaß, betrang oder entsetzung oder so sich einer beclagt, der Kf., F. oder furstmessig, geistlich oder weltlich, irre oder verhindere ine an geprauch seins wi tpanns, zol, gleit, gericht oder ander herbrachten nutzung oder gerechtigkeit, in yedem diser oder dergleichen felle ungerverlich sol der clager den Kf., F. oder furstmessigen, obgemelt, ersuchen, ime darumb rechtens vor seinen reten zu pflegen. Alsdann in dem nechstvolgenden monet sol der ervordert Kf., F. oder furstmessig dem clager fur sein rete an seinen hof ungerverlich zu recht furbescheyden und auf denselben und andere nachvolgende gerichtstege 9 seiner treffenlichen rete an seinem hof zu recht nidersetzen, die aus dem adl und aus den geleerten genommen werden sollen ungerverlich, doch das der amptman, der in der sache wider den clager mit der tate gehandelt hette, nit niedergesetzt werde. Und sol einer aus den 9 reten, den der beclagt fur einen richter ernennen wirdet, in beywesen des clagers oder seins anwalds von den 8 reten und der elist unter den 8 reten widerumb von ime emphaen einen eyde, das er in solicher sachen nach beyder teyl furbringen und seinem besten verstantnus recht spreche und daryn keinerley gefeuerlichkeit geprauchten oder sich daran nichts verhyndern lassen welle. Dieselben 9 rete sollen auch aller glubd und ryde in der sache oder sachen, die fur sy in recht geprecht werden, solang die unentscheiden hangen, ledig sein und beleiben, sovil sy solich glubd und eyde daryn recht zu sprechen verhyndern solt oder mocht. Auch sol die clagend party nit in widerrecht fur die rete gezogen werden. Und sol solich recht, von dem gerichtstag an zu rechnen, als die clag in gericht bracht wurdet, in nechstvolgendem halben jare zu ende kumen. Es begege sich dann durch rechtlich schub und erkanntnus verter erlengerung, so sol es doch in jar und tag zu ende ratichen. Und sol

yedem teyl zugelassen sein, ob er sich mit gesprochen urteim beswert bedeuht, das er sich an unser kgl. oder ksl. camergericht berufen und appellirn muge laut des artikels von den appellacion, obgemelt, des clegers halb on ungnad und on verhynderung des Kf., F. oder furstmessigen und meniglich von seinen wegen. Es sol auch der beclagt Kf., F. oder furstmessig dem clager und den, so er ungeverlich mit ime bringen oder von seinen wegen schicken wurde, zu den gerichtstegen zu kumen, dabey zu sein und wider an ir gewarsam sein ungeverlich gleit zueschreyben, doch sol der clager niemanden mit ime pringen oder schicken, der ein verprecher were unsers kgl. landfridens oder desselben Kf., F. oder furstmessigen offner, entsagter veind oder beschediger. Wolte aber der Kf., F. oder ander furstmessig, geistlicher oder weltlicher, vor seinen reiten obgemelter maB mit zu recht kumen oder wurde des, wie ob steet, nit verhoffen, so sol dem clager zugelassen sein, denselben Kf., F. oder furstmessigen mit dem kgl. oder ksl. camergericht furzunemen nach diser ordnung, uber das camergericht gemacht.

- (1) ungnad <sup>を</sup> gewalttätigkeit <sup>を</sup> 違ふに <sup>を</sup> widerrechtlichkeit <sup>を</sup> 違ふに。Vgl. Grimm, Wörterbuch, Bd. 24. S. 1019.
- (2) mit recht vornehmen <sup>を</sup> vorladen vor gericht, verklagen, Vgl. Grimm, Wörterbuch Bd. 26, S. 1355.
- (3) Entwurf I <sup>には</sup> 対応する条文が欠けてゐる。

第31条 さらに、本法により、何人も彼のオーバーカイト、特權、自由を奪われずに留保されるべきである。だが、誰かが帝国追放者に滞在の恩恵を施すとき、その自由は帝国カンマー裁判所の判決の執行に対して用ゐられてはならず、追放者はそれに対してかへまい保護されるべきである。

31. Item mit disen ordnungen und sätzen sol sunst nyemands seine oberkeit, privilegia, freyheit benomen und abgeschnitten, sunder vorbehalten sein, yedoch ob yemands begnadet were, des Reichs echter zu halten, sollen dieselben freyheit wider volstreckung der urteyl unsers kgl. oder ksl. camergerichts nit gepraucht und die echter sollen dawider nit geschützt oder enthalten werden.

第32条 さらに、以後、カンマー裁判所にさらに規定を必要とすることが生じたとき、カンマー裁判所長および陪席判決人は、これを年毎に、朕および朕の選帝侯、諸侯、および、その年に自らかその代理者が共に集う會議に提出すべきである。<sup>(1)</sup>

朕は、その會議と協議して、カンマー裁判所を助成し、法と正義の發見のために、これを審議しなければならぬ。

結びついている朕の国王の印璽で認証されたこの文書の証書は、朕と神聖（ローマ）帝国の都市ウォルムスにて、キリスト生誕後一四九五年、朕の帝国におけるローマ国王の一〇年、ハンガリー国王の六年の八月七日に付与される。

協議にもとづく皇帝の勅命により、マイニンツ大司教大書記長ヘルトルドが署名した。

32. Item so hinhach am camergericht furfiel, das verter verschung, ordnung, satzung oder declaration bedurften wurde, dasselb sullen camerichter und urteyler yeglichs jars an uns, auch unser Kff., Ft. und samlung, die desselben jars durch sich selbst oder ire anwelde beyeinander komen werden, bringen, das wir mit rate und willen derselben samlung daryn zu handeln haben zu furdrung und aufnemung des camergerichts und erfindung des rechten und gerechtigkeit.

Mit urkunde dits briefs, besigelt mit unserm kgl. anhangenden insigl, geben in unserer und des Hl. R. stat Worms am 7. Tag des monets Augusti nach Cristi gepurt 1495, unserer reiche des Rom. im 10. und des Hungerischen im 6. jaren. Ad mandatum domini regis in consilio Bertoldus archiepiscopus Moguntinensis archicancellarius subscripsit.

(1) Entwurf II u. IIIでは、帝國議會の代わりに、帝國統治院があげられているが、Entwurf Iには何もない。また、Entwurf I, II u. IIIでは法の正義の發見について、「上述の条文に疑義が生じたとき」という文言が挿入されている。